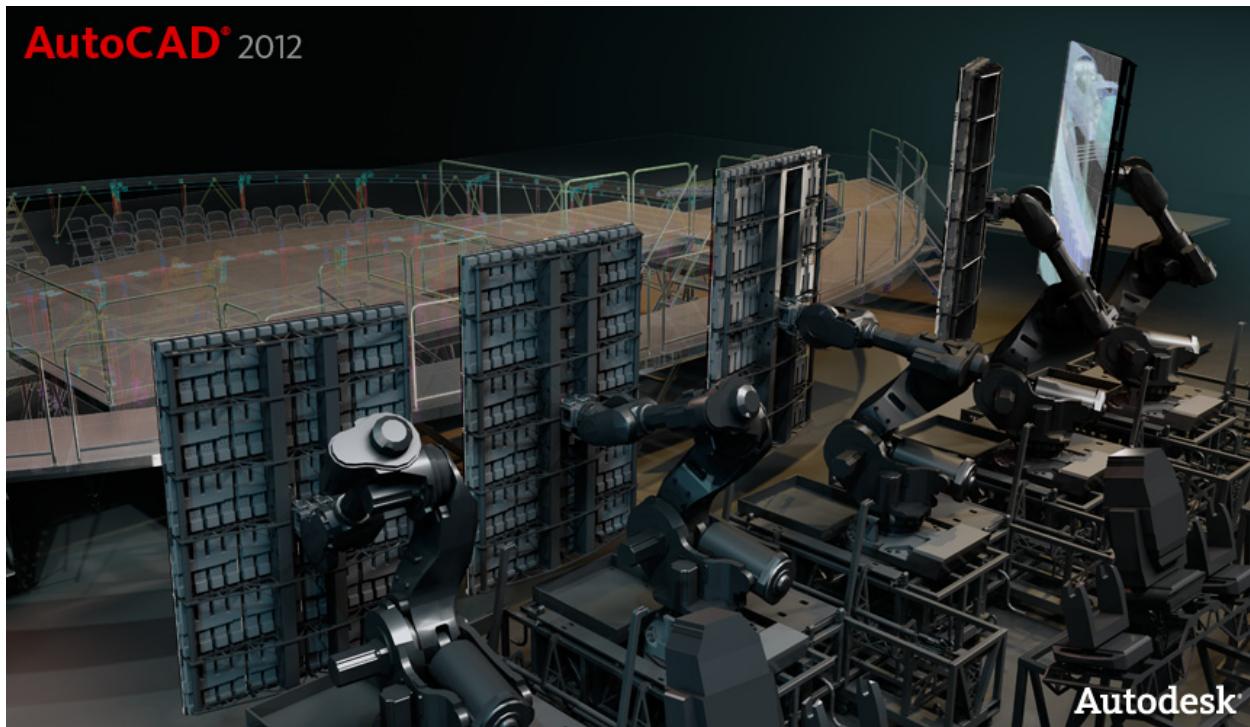


AutoCAD 2012 プレビュー ガイド

AutoCAD 2012 Beta 3 リリースをご利用いただきありがとうございます。『プレビュー ガイド』に関するご意見やご提案は heidi.hewett@autodesk.com にご送信ください。本ガイドの更新情報の多くは、AutoCAD Mechanical 2012 にも該当します。



AutoCAD® は、効果的で柔軟な機能で身の周りにあるさまざまなものを作成して「かたち」にしていくことができる、世界をリードする 2D および 3D 設計アプリケーションです。強力な 3D ツールにより、考えられる限りのあらゆる形状を作成できるため、設計のアイデアを直感的に検討できます。さらに、設計およびドキュメント作成の効率を向上させ、チームのメンバーと安全、正確、かつスムーズに設計を共有できる革新的な機能を提供しています。また、他に類を見ない最高の柔軟性を備えた強力なプログラミングツールと何千ものアドオンアプリケーションは、個別のニーズに合うように AutoCAD ソフトウェアのカスタマイズを可能にします。AutoCAD はこれら多数の機能を搭載することにより、設計とドキュメント作成をさらなる高みに導くために必要なパワーと柔軟性を提供します。

目次

AutoCAD 2012 の紹介	4
モダンなユーザ操作環境	4
パフォーマンスの改善	4
Autodesk Content Explorer	4
リボン インタフェース	9
オートコンプリートによるコマンド入力	10
多機能グリップ	10
微調整機能	11
クイック プロパティ	11
オブジェクトの選択	11
外部参照の強化	13
Autodesk Exchange - AutoCAD	13
エクスプローラ	14
作図領域でのビューポートコントロール	14
UCS の機能強化	15
3D 自動調整配列複写	17
作成プレビュー	18
チェーン選択とループ選択	19
オフセット エッジ	20
境界引き伸ばし機能	20
トリムされたサーフェスのプロパティ	21
3D AutoSnap マーカ	21
ソリッドの履歴	22
3Dconnexion のサポート	22
Autodesk Fusion	22
点群のサポート	24
ドキュメント	25
3D モデルの読み込み	25
モデルの図面化	25
注釈	31
オブジェクトスナップの強化	33
フィレット、面取り、ブレンド、結合	34

スプラインの強化	35
2D 配列複写機能	36
複写コマンド	39
画層の強化	39
重複オブジェクトの削除	40
コミュニケーション	41
ラスター ファイルのサポート	41
DGN のサポート	41
DWG 変換	42
シートセットマネージャと Vault の統合	44
マテリアルライブラリ	44
AutoCAD WS	47
カスタマイズ	51
インストール	51
移行とカスタマイズ	52
印刷ファイルの検索パス	54

AutoCAD 2012 の紹介

3D モデルの図面化、リアルなキャプチャ、および 3D コンセプトデザインのための新しく拡張されたワークフローにより、AutoCAD 2012 での生産性を最大限に向上させることができます。強力なサーフェスモデリングツールを使用して、設計のアイデアを探求できます。各種のモデリング形式を使用して図面を素早く作成したり、手作業による図面作成作業を軽減することができます。完成品情報を点群としてキャプチャして読み込むことにより、設計工程を省略して開始することができます。さらに、時間の節約につながるよう、頻繁に使用する機能が広範囲に機能強化されています。AutoCAD 2012 には 3D 設計作業を途切れなく行うために必要な強力なツールが用意されており、ユーザのプロジェクトを従来以上にすばやく完了させる大きな力になります。

モダンなユーザ操作環境

AutoCAD 2012 では、コンセプトのモデリングから図面の完成に至るまで、あらゆる場面でユーザ インタフェースの反応速度を改善しました。特にパフォーマンス、拡張されたオンラインリソース、およびコマンドや編集ツールへの軽快で直感的なアクセスが改善されています。これにより、ソフトウェア操作を短縮して、設計作業そのものに費やす時間を増やすことができます。

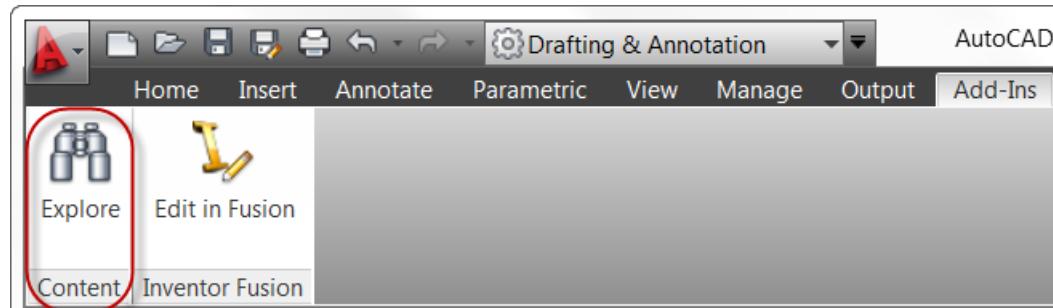
パフォーマンスの改善

AutoCAD 2012 は多くの領域でパフォーマンスが改善されました。特に Windows Vista と Windows 7 での実行時に起動が高速になりました。AutoCAD 2012 では、リボンタブの切り替え操作にもほぼ即時に反応します。また、ロフトとメッシュが使用された大規模な 3D モデルを開く際や、大規模な 3D モデルのオービット処理時のパフォーマンスも改善されました。その他のパフォーマンスの改善点として、選択のハイライト表示、ライセンス設定のチェックアウト、LISP ルーチンの実行速度などがあります。

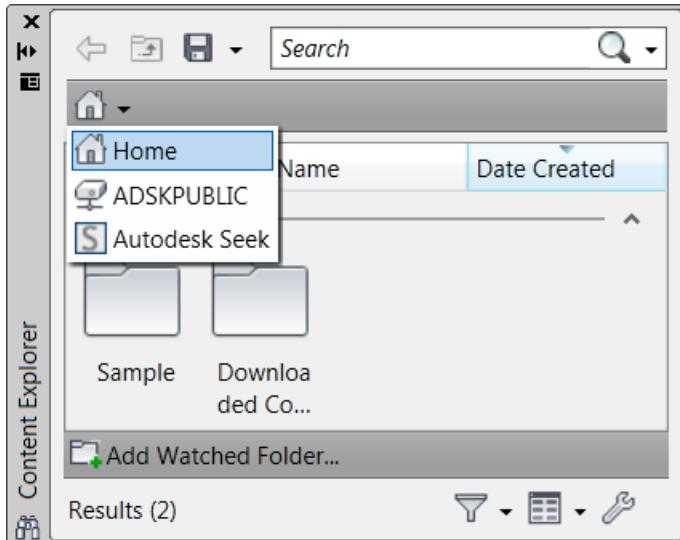
Autodesk Content Explorer

ファイルのオブジェクトや文字属性に基づいて、デザイン コンテンツを即座に検索することができます。Autodesk Content Explorer は、指定した検索場所にデータのインデックスを作成するので、ブロック、画層、線種、各種スタイルなどの図面内コンテンツを高速に検索、閲覧することができます。Design Center とは異なり、Content Explorer は、Google 検索のようにインデックスに基づいて構築されているため、数千単位のファイルが格納されている複数のフォルダにわたって設計オブジェクトをすばやく検索でき、検索結果もすぐに表示されます。さらに、Content Explorer には、Autodesk Seek など他のコンテンツソースを閲覧、検索できる単一のインターフェースが用意されています(注: Autodesk Seek は日本語版では未対応)。

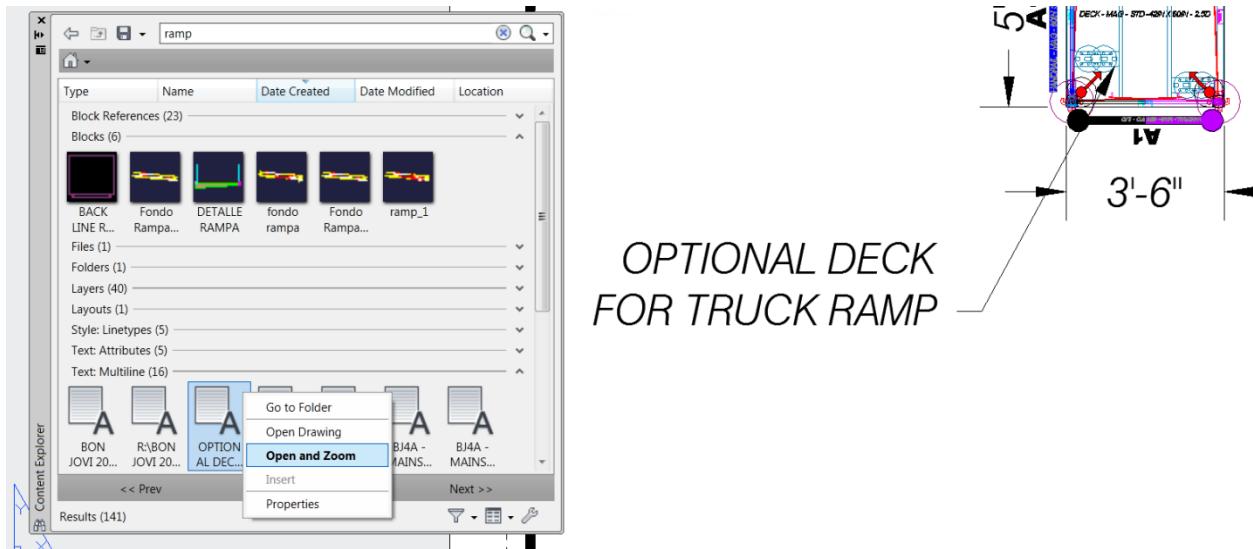
Content Explorer には、[アドイン]リボンタブの[検索]コマンドを使用して簡単にアクセスできます。



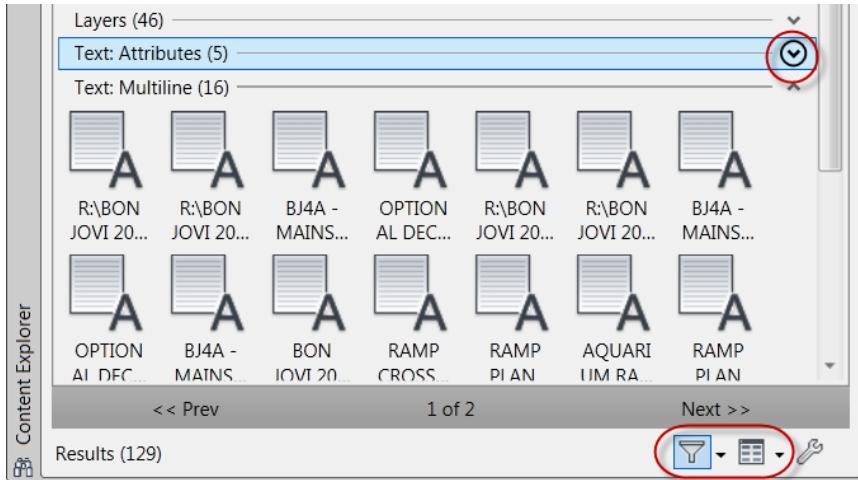
[Content Explorer] ウィンドウでは、[検索] フィールドを使用して、ローカルコンピュータ、1つまたは複数のネットワークの場所、および Autodesk Seek サイト上のデザイン コンテンツを検索します。プルダウン メニューを使用すると、検索可能な場所を選択できます。



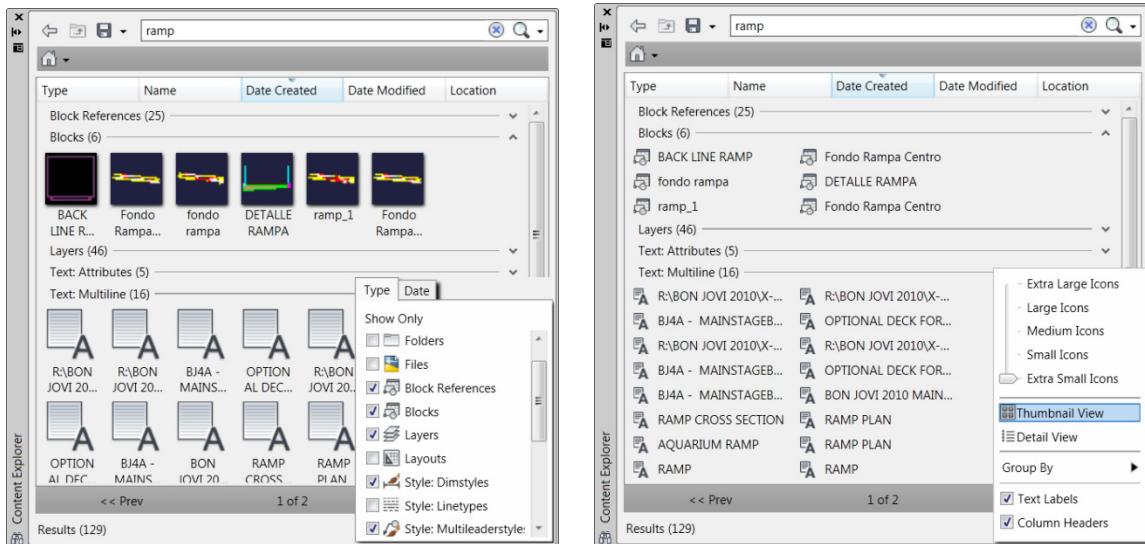
特定のブロック参照や、文字列(ブロック属性データを含む)を検索すると、ファイルに含まれる参照数をすばやく確認したり、複数のファイルにわたって特定の参照を検索することができます。コンテンツは、[Content Explorer] ウィンドウから現在の図面に簡単にドラッグ アンド ドロップできます。また、[Content Explorer] ウィンドウでコンテンツを右クリックするかダブルクリックして、自動的にソースファイルを開き、文字などの関連オブジェクトにズームすることもできます。



検索結果の各パネルは展開したり折りたたむことができるため、すべての検索結果を簡単に確認できます。コンテンツのタイプと表示形式をコントロールするには、[Content Explorer] ウィンドウの右下にある[フィルタ設定を変更]と[表示オプションを変更]コマンドを使用します。



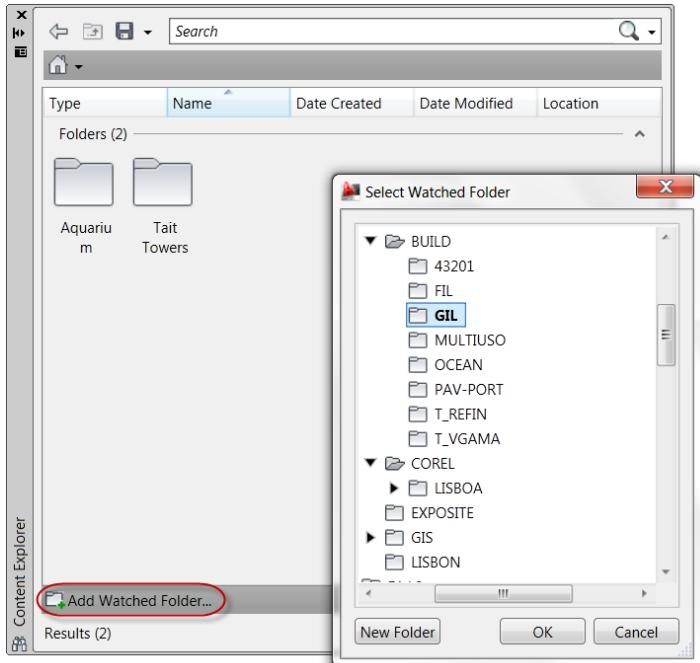
たとえば、関心のある特定のオブジェクトタイプのみを表示するように、コンテンツをフィルタできます。サムネイルビューと詳細ビューを切り替えたり、アイコンのサイズを指定したり、さまざまな方法で検索結果を分類して表示したりできるほか、文字ラベルや列ヘッダを表示するかどうかも指定できます。



Content Explorer は、インデックスに含まれる指定場所のコンテンツを検索します。その場所での操作は AutoCADとともにインストールされる Content Service によって継続的に監視され、インデックスは変更を反映するように自動的に更新されます。既定では、検索インデックスには、AutoCAD の Sample フォルダ、Downloaded Content フォルダ、Autodesk Seek サイトが含まれています(注: Autodesk Seek は日本語版では未対応)。インデックスには、ユーザ独自のローカルコンテンツやネットワークコンテンツを簡単に追加できます。

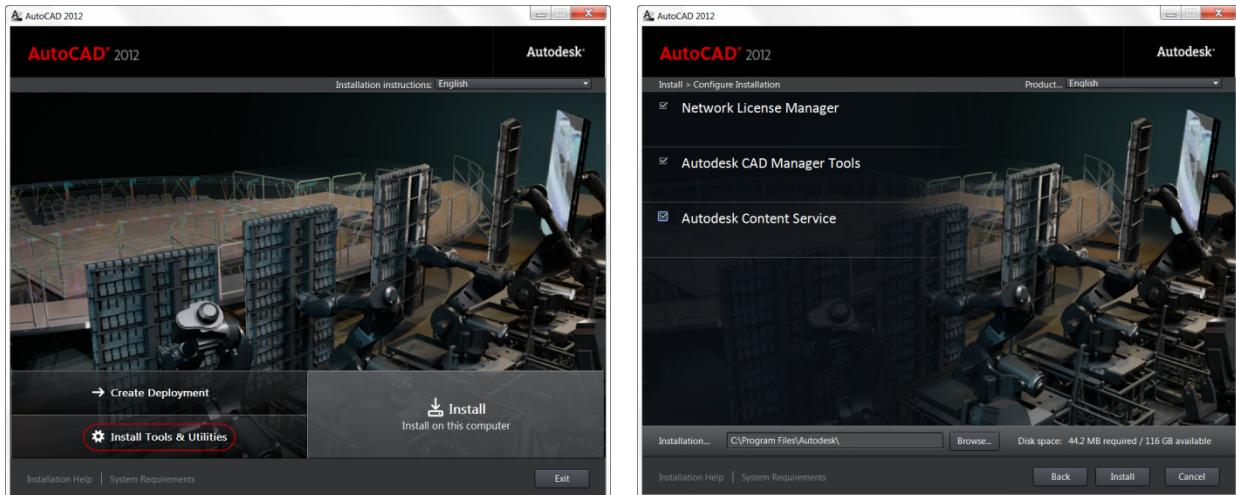
ローカルコンテンツ

ユーザ独自のローカル フォルダを Content Explorer のインデックスに追加するには、[Content Explorer] ウィンドウの下部にある[ウォッチフォルダを追加]オプションを使用するか、Windows Explorer から Content Explorer にフォルダをドラッグ アンド ドロップします。フォルダが移動またはコピーされるわけではなく、検索インデックスに追加されるだけです。



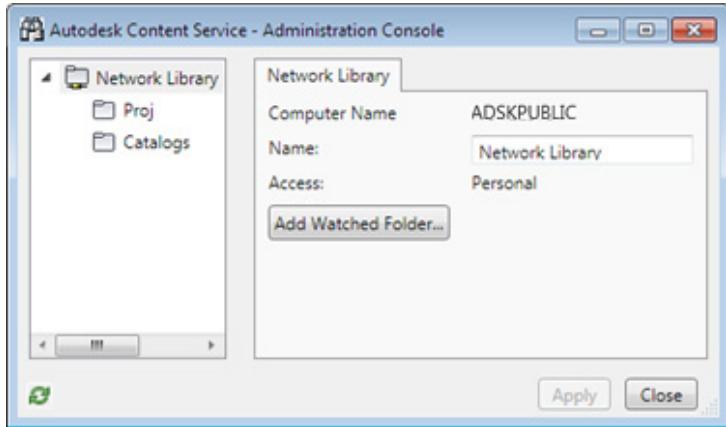
ネットワーク コンテンツ

ローカルコンピュータのコンテンツを検索するほかに、Content Explorer で 1 つまたは複数のネットワークコンピュータを検索することもできます。ただし、ネットワークコンピュータ上で Content Service を実行し、そのコンピュータ上でインデックスを構築する必要があります。これにより、すべてのクライアントがアクセスして検索できる単一のインデックスが作成されます。そのため、ネットワードライブ上の検索をサポートするには、このソフトウェアを個別にネットワークコンピュータにインストールする必要があります。このソフトウェアは「Autodesk Content Service」と呼ばれ、AutoCAD 2012 インストーラの[ツールとユーティリティ]からインストールできます。このプログラムを選択していることを確認し、1 つまたは複数のネットワークコンピュータにインストールします。

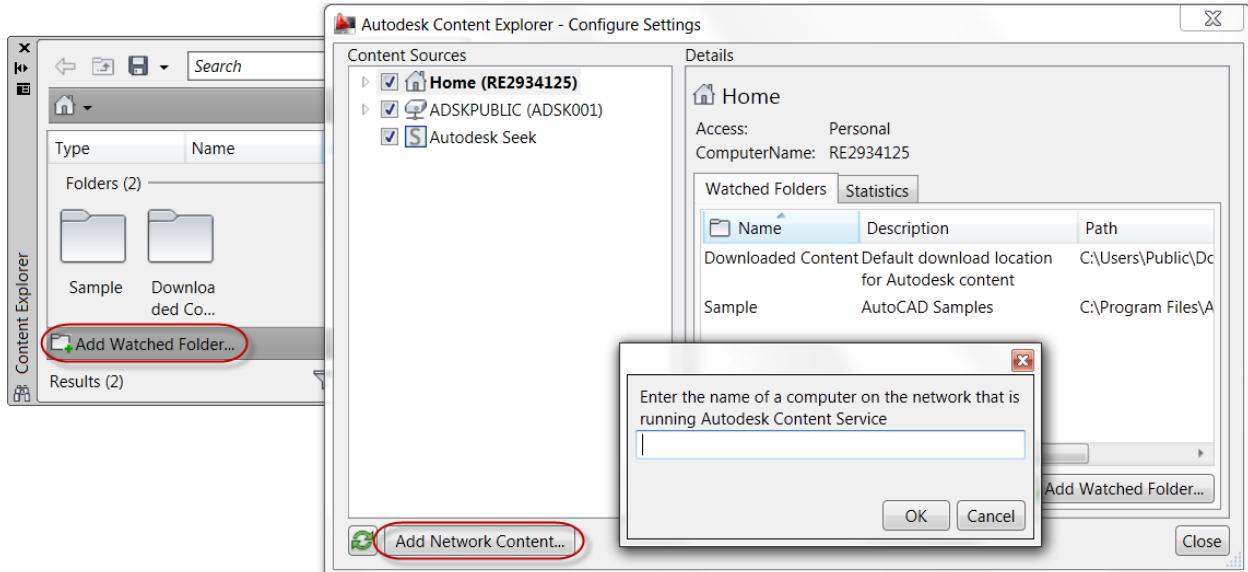


Content Service をネットワークコンピュータにインストールした後は、ウォッチされる 1 つまたは複数のネットワークフォルダを追加できます。ウォッチ フォルダを追加すると、Content Service はウォッチ フォルダ内のファイルのインデックスを構築できるようになります。ローカルコンピュータのウォッチ フォルダと、ネットワーク

コンピュータのウォッチフォルダの主な違いは、ネットワークコンピュータでは、AutoCADユーザがウォッチフォルダにアクセスして検索できるように、ウォッチフォルダを共有フォルダにする必要がある点です。ネットワーク共有フォルダをウォッチフォルダとして追加するには、Windowsの[スタート]メニューから[すべてのプログラム]>[Autodesk]>[Content Service]>[Content Service - 管理コンソール]をクリックして、[Autodesk Content Service - 管理コンソール]を起動します。[ウォッチフォルダを追加]をクリックすると、ファイル共有のみを選択できます。



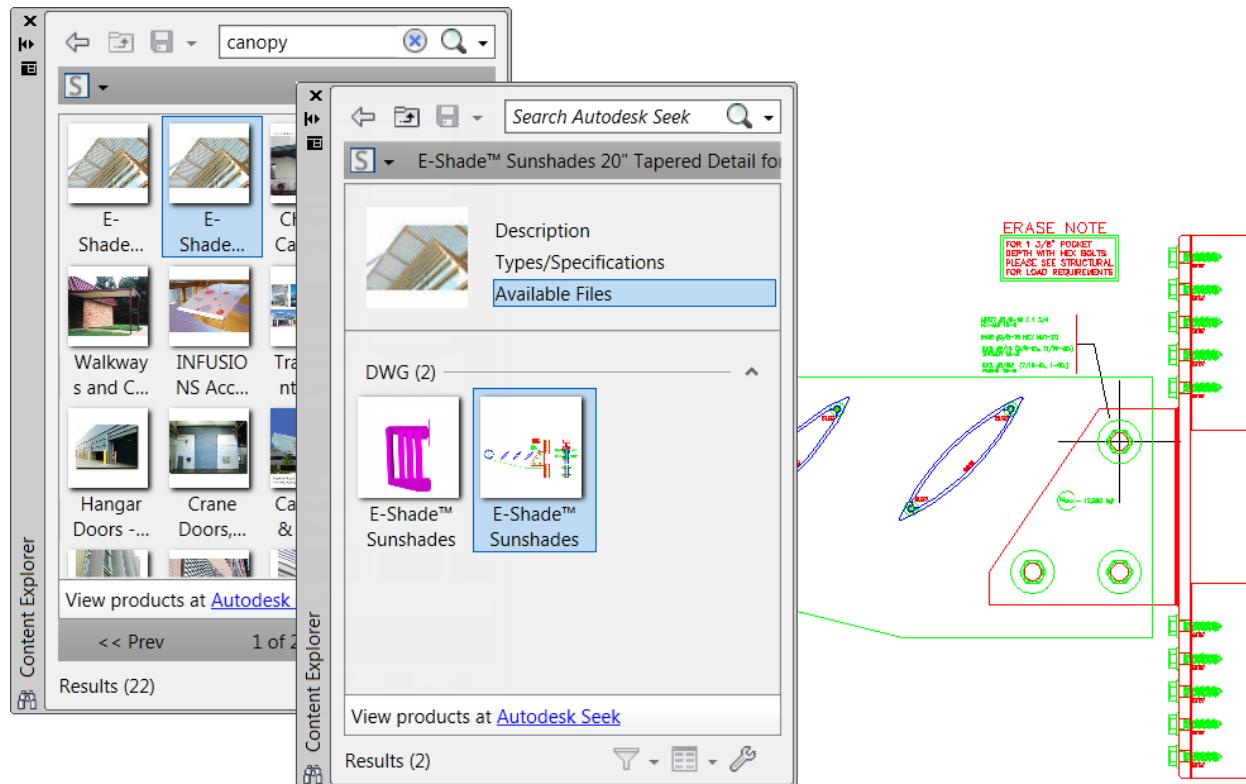
1つまたは複数のネットワークコンピュータに Autodesk Content Service をインストールし、共有ウォッチフォルダを環境設定すると、これらのネットワークの場所を AutoCAD の Content Explorer 内の追加コンテンツソースとして追加できるようになります。[Content Explorer] ウィンドウの右下の[環境設定]をクリックするとダイアログボックスが表示され、検索およびアクセスできるさまざまなコンテンツソースが表示されます。次に、[環境設定] ダイアログボックスの左下の[ネットワークコンテンツを追加]をクリックします。ネットワークコンピュータのコンピュータ名または IP アドレス(例: serv1230001, 10.23.58.88 など)を指定します。



ネットワークコンテンツは Content Explorer から簡単に検索でき、インデックスを使用するので、即座に検索結果が表示されます。

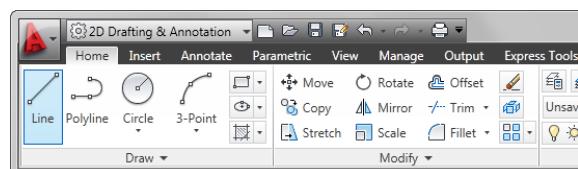
Autodesk Seek のコンテンツ

Content Explorer では、[Autodesk Seek]オプションを使用して Autodesk Seek のオンラインコンテンツを閲覧、検索できます(注: Autodesk Seek は日本語版では未対応)。製造元発行のファイルや製品仕様を検索し、ファイルを直接図面に挿入できます。外部の Web サイトに移動する必要はありません。

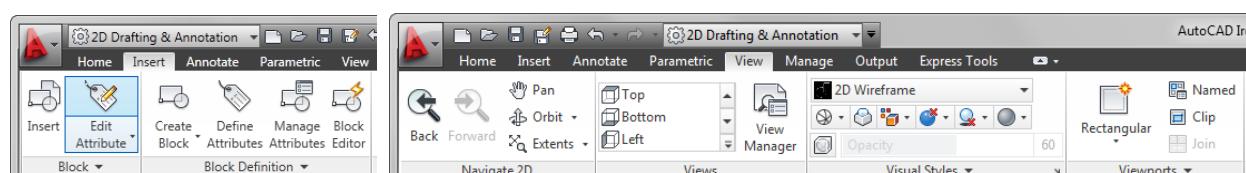


リボン インタフェース

リボンインターフェースは更新され、頻繁に使用するコマンドの特定とアクセスが簡単になりました。[ホーム]タブの[作成]パネルと[修正]パネルの内容が変更されています。

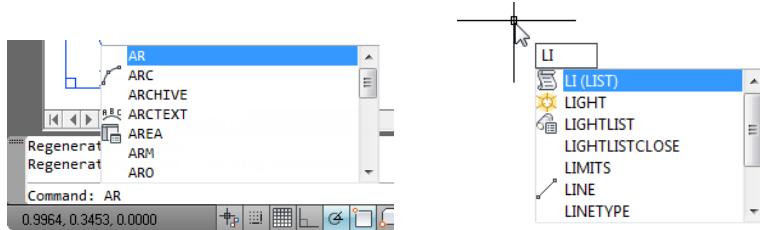


[挿入]タブには、[ブロック]パネルと[ブロック定義]パネルが表示されるようになりました。ブロック参照の挿入と編集に関連するコマンドと、ブロック定義の作成または編集に使用するコマンドが個別にグループ化されています。ブロック書き出しがブロック作成フライアウトに含まれます。[表示]タブには新しく[進む]、[戻る]コマンドが追加され、[ビューポート]パネルに[矩形]ビューポートオプションが追加されました。

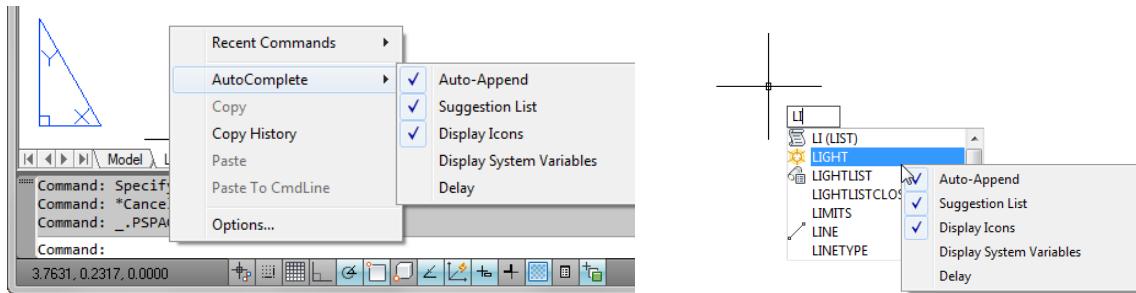


オートコンプリートによるコマンド入力

AutoCAD 2012 では、コマンドへのアクセスを効率的に行えるオートコンプリート機能が搭載されました。コマンドプロンプトに対して入力するか、ダイナミック入力を使用すると、AutoCAD コマンドまたはコマンドのエイリアスの入力が自動的に補完されます。途中まで入力すると、それまでに入力した文字に一致するすべてのコマンドのリストが表示されます。このリストをスクロールしてコマンドを選択できます。



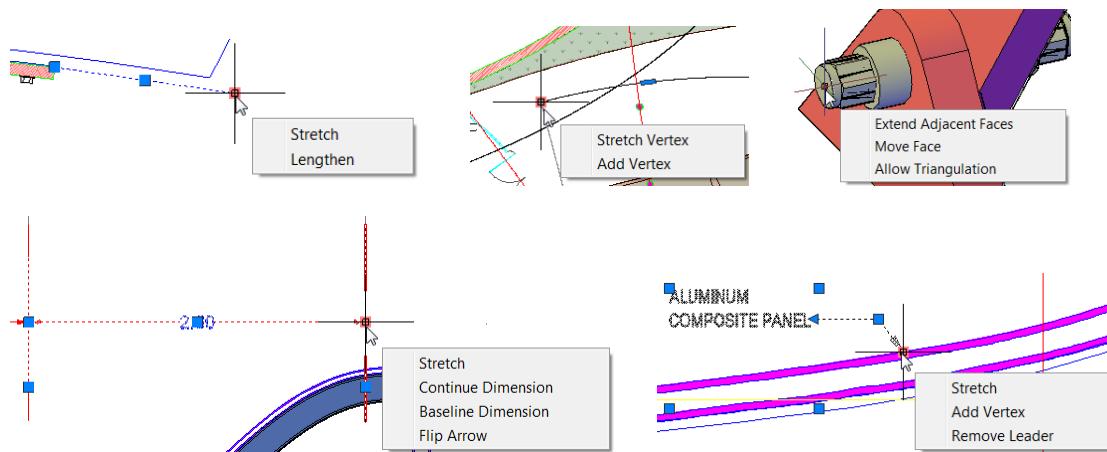
右クリックメニューからは、オートコンプリートリストにシステム変数を表示するかどうかや、リストが表示されるまでの待機時間を指定する機能など、新しいオートコンプリートコントロールに簡単にアクセスできます。



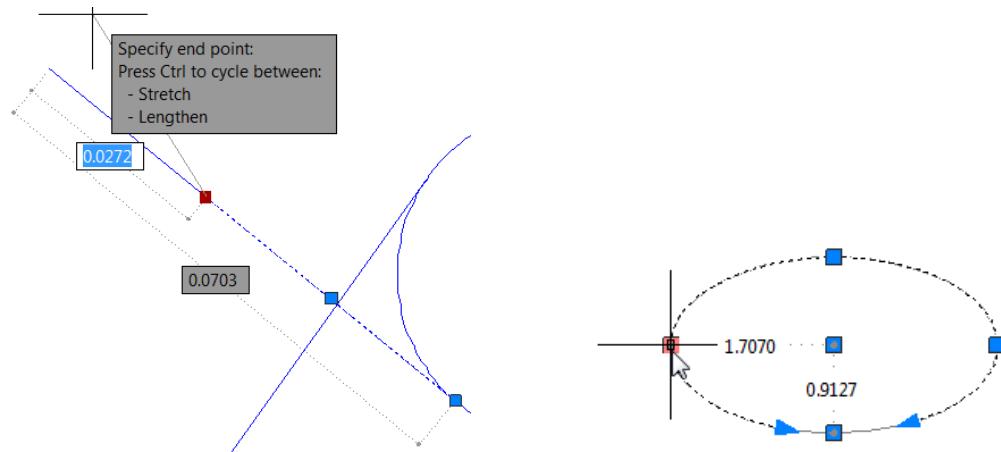
[コマンド] ウィンドウでは、コマンド履歴はアクティブなコマンドラインと区別され、灰色の背景色で表示されます。[作図ウィンドウの色] ダイアログ ボックスを使用して、コマンド ウィンドウに関連する色を変更できます。このダイアログには、[オプション] ダイアログ ボックスの[表示] タブからアクセスできます。

多機能グリップ

多機能グリップの機能は、3D 面、エッジ、頂点と同じように、線分、円弧、楕円弧、寸法、マルチ引出線などの AutoCAD オブジェクトに対しても拡張されました。グリップにカーソルを移動すると、選択したオブジェクトの関連オブジェクトにアクセスできます。



ダイナミック入力を有効にして多機能グリップを使用すると、関連付けられた寸法値を介してオブジェクトを編集できます。たとえば、選択した線分について[長さ変更]オプションを選択すると、合計の長さと増分の長さに関するダイナミック入力の寸法が表示されます。[Tab]キーを使用して、2つの値を切り替えることができます。同様に、橿円弧では長軸と短軸のダイナミック入力をサポートするように更新されました。ダイナミック入力を有効にして四半円のグリップにカーソルを移動すると、中心から四半円までの距離が長軸と短軸に沿って表示されます。グリップをクリックすると、値を編集できます。

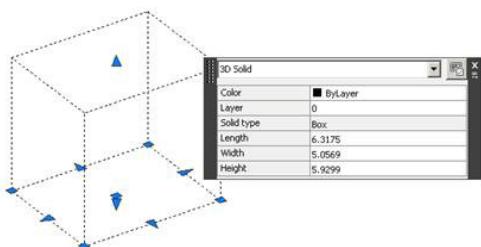


微調整機能

選択したオブジェクトを垂直/水平方向に数ピクセル移動したい場合には、新しい微調整機能が便利です。この場合、[Ctrl]と任意の矢印キーを押すだけです。

クリック プロパティ

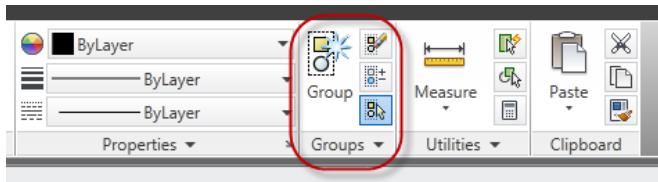
[クリック プロパティ]コマンド(コマンド エイリアスは QP)を使用すると、選択したオブジェクトのプロパティを確認したり修正することができます。ほとんどのオブジェクトは、ダブルクリックすると自動的にクリック プロパティ ウィンドウが表示されます。選択セットをクリアすると自動的に閉じ、もう一度コマンドを起動するまでは表示されません。クリック プロパティの既定の一覧は、頻繁に使用するプロパティを含むように更新されました。



オブジェクトの選択

オブジェクト グループ

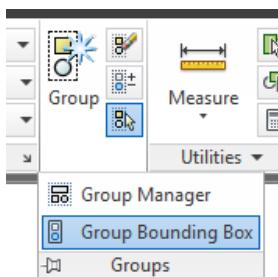
AutoCAD 2012 ではグループ機能が整理され、操作が簡単になりました。[ホーム]リボンタブの[グループ]パネルから新しいグループ コマンドにアクセスできます。



[グループ]コマンドによって、従来の[オブジェクトグループ]ダイアログボックスは、オブジェクトの選択を求めるプロンプト表示に置き換えられました。オプションでグループ名と説明を指定できます。[グループ解除]コマンドを使用すると、オブジェクトのグループが解除されます。[グループ編集]コマンドを使用して、オブジェクトの追加および削除、またはグループ名の変更を行うことができます。これらのコマンドは、グループ選択時の右クリックメニューから使用することもできます。

[グループを選択]切り替えを使用すると、オブジェクトを個々に選択するか、グループとして選択するかを制御できます。

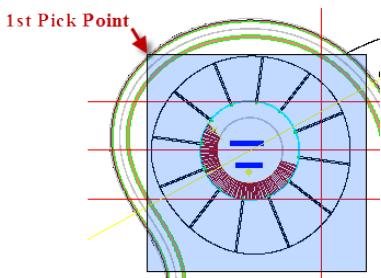
[グループ]パネルを展開すると、その他のグループコマンドにアクセスできます。[グループ境界ボックス]は、グループの表示方法を制御します。有効にすると、グループを囲む単一のグリップと境界ボックスが表示されます。[グループ管理]コマンドは、従来の[オブジェクトグループ設定]ダイアログボックスを表示します。



[名前削除]コマンドは、オブジェクトを含まないグループの削除を行えるようになりました。

暗黙的な選択

選択変数によって、オブジェクト選択がより柔軟で制御しやすくなりました。窓選択を利用して最初の点を選択する場合、従来の窓選択に加え、ポリゴン窓、ポリゴン交差、およびフェンスを使用できるようになりました。また、2つの点を選択する方法、または選択してドラッグする方法で窓選択する必要はなくなりました。PICKDRAGシステム変数には、これら2つの方法の両方を組み合わせた新しいオプション(PICKDRAG=2)が追加されました。PICKAUTOシステム変数には、オブジェクトを選択しているときでも窓選択または交差選択を開始できる新しいオプション(PICKAUTO=2)が追加されました。その結果、選択時に未作図エリアを見つける必要が最小限になりました。

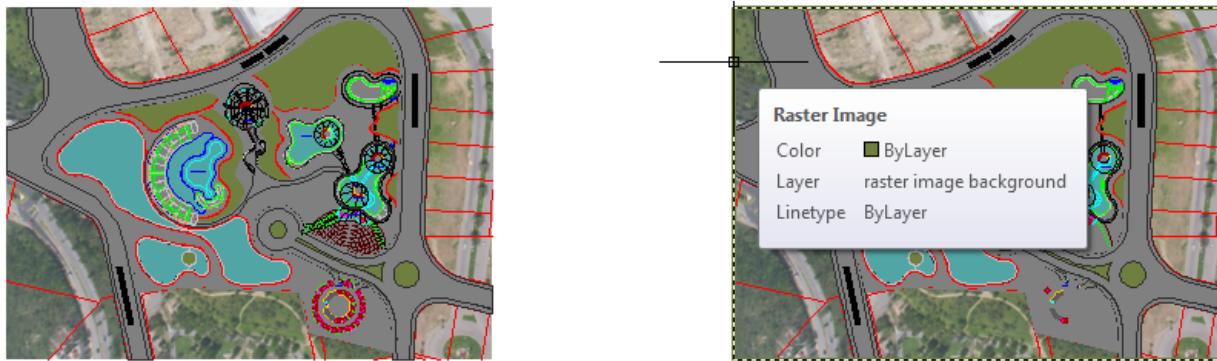


スナップ モード

スナップ モードをオンにしていても、オブジェクトの選択時にカーソルがグリッド点に吸着することはなくなりました。点を指定する場合にのみスナップが働きます。

外部参照の強化

AutoCAD 2012 では、外部参照ファイルをハイライト表示および選択する機能が強化されました。アタッチした画像、DWF、またはPDFファイルのエッジにカーソルを移動すると、フレームが無効な場合でも、選択プレビュー フレームが表示されます。



同様に、アタッチした DWF、PDF、DGN、または DWG ファイル内のジオメトリにカーソルを移動すると、選択プレビュー フレームが表示されます。グリップ編集が可能なフレームを表示するために、アタッチされた参照ファイルのフレームを選択することができます。

外部参照マネージャの操作方法は強化され、リストから参照ファイルを選択すると、フレームが自動的に表示されるようになっています。

フレームの選択動作をサポートするために、新しいシステム変数 FRAMESELECTION が AutoCAD 2012 に追加されました。

Autodesk Exchange - AutoCAD

Autodesk Exchange からスタートアップビデオ、ダウンロード可能なプラグイン、およびヘルプコンテンツにアクセスできるため、必要なコンテンツを直接 AutoCAD のワークスペースで使用できます。Autodesk Exchange - AutoCAD は、AutoCAD 2012 を起動すると最初に表示されます。ウィンドウの左下にある[起動時にこのウィンドウを表示]をオフにすると、起動時に Autodesk Exchange - AutoCAD を表示させないようにできます。また、AutoCAD ウィンドウの右上にある情報センターからいつでもアクセスできます。[Exchange] ボタンをクリックすると、Autodesk Exchange の[ホーム]タブが表示され、[ヘルプ]ボタンをクリックすると、[ヘルプ]タブが表示されます。



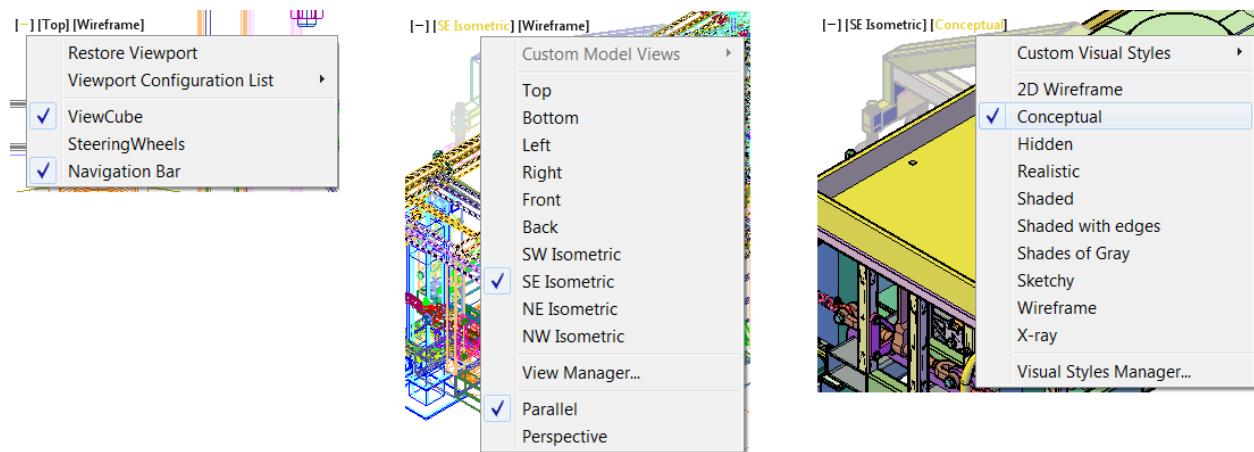
Autodesk Exchange - AutoCAD には、[ホーム]タブ、[アプリケーション]タブ、[ヘルプ]タブがあります。[ホーム]タブからは、ベスト セラーのアプリケーションやビデオなどの重要なリンクに簡単にアクセスできます。[アプリケーション]タブでは、サードパーティが開発した無償または有償のアプリケーションやコンテンツを閲

覗したりダウンロードできます。[ヘルプ]タブからは、AutoCAD オンライン ヘルプシステムに直接アクセスできます。新しいビデオコンテンツを含むオートデスク製品のドキュメントを閲覧したり検索できます(注:[アプリケーション(Apps)]タブは、Exchange の言語を English に設定した場合にのみ表示されます)。

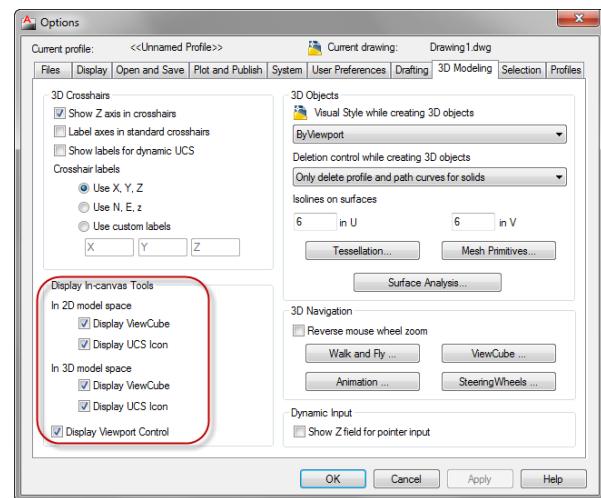
エクスプローラ

作図領域でのビューポートコントロール

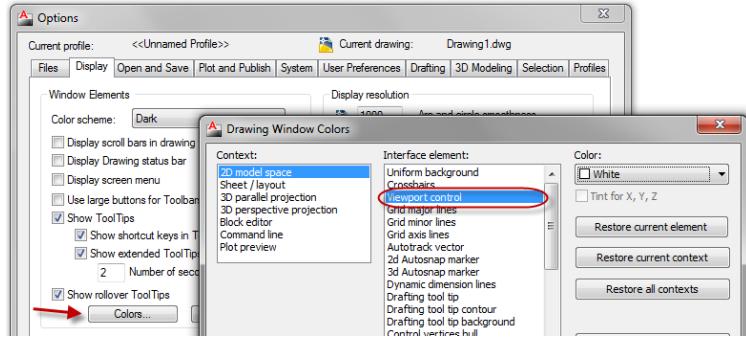
新しいビューポートコントロールは、ビューポートの設定、ビュー、および視覚スタイルを直接ビューポート作図領域から変更できるようにします。



[オプション]ダイアログボックスの[3D モデリング]タブには、キャンバスビューポートコントロールを表示するためのコントロールがあります。



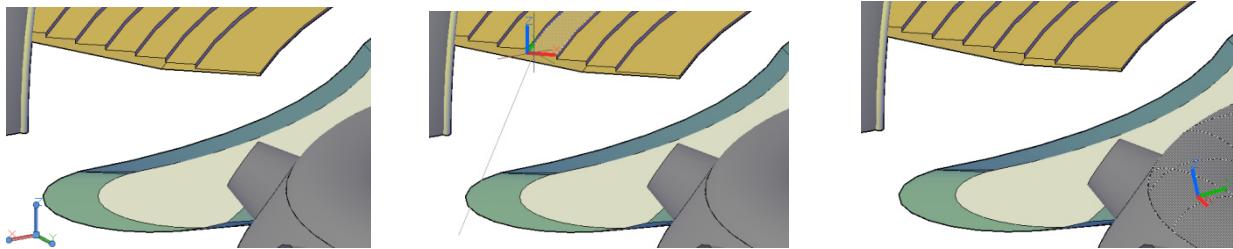
ビューポートコントロールの色は、[オプション]ダイアログの[表示]タブからアクセスできる[作図ウィンドウの色]ダイアログで指定できます。



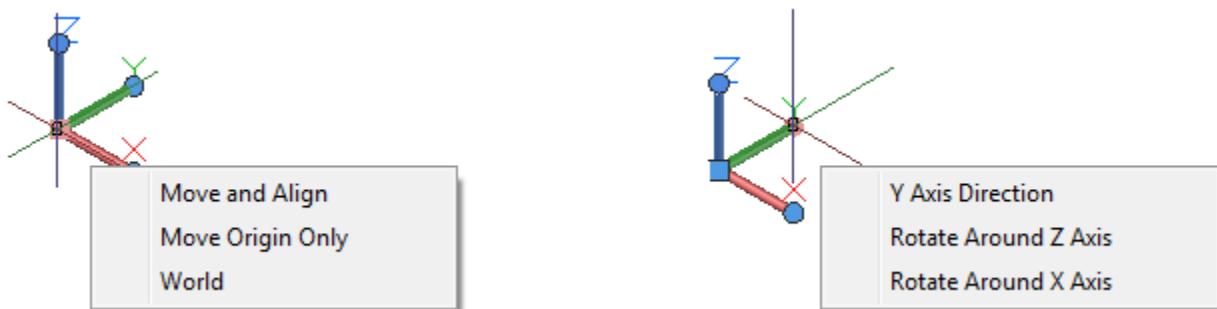
UCS の機能強化

AutoCAD 2012 では、UCS をより速く、使いやすくするための多数の機能強化が行われました。

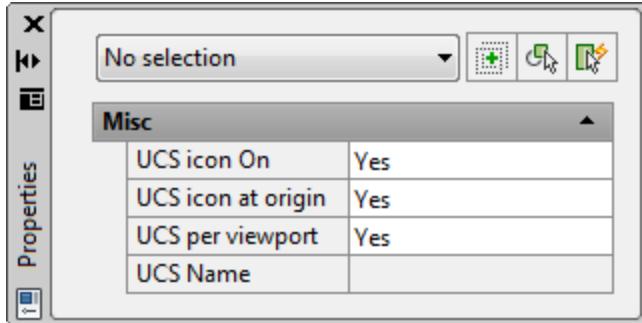
UCS アイコンは、直接操作できるように更新されました。UCS アイコンを選択してから、多機能グリップを使用して UCS を変更できます。簡単に原点を移動したり、オブジェクト(サーフェスやソリッドの曲面を含む)に UCS を自動的に位置合わせできます。



グリップを使用すれば、UCS[UCS 管理]コマンドを使用しなくても、X、Y、Z 軸を中心に UCS を回転できます。

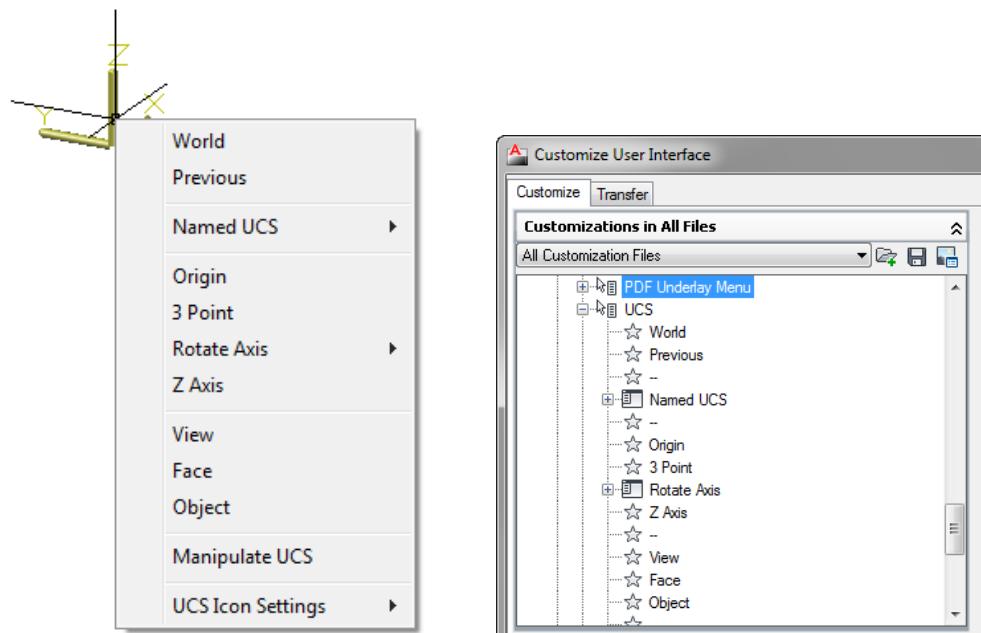


UCS アイコンの選択時には、関連のあるオプションが[プロパティ]パレットに表示されます。

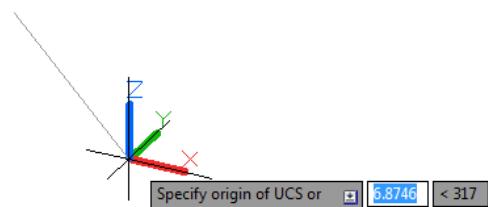


[UCS定義管理]ダイアログ ボックスの[設定]タブにある新しいコントロールでは、UCS アイコンを選択できるかどうかを指定できます。[UCS定義管理]ダイアログ ボックスには、3D モデリングワークスペースがアクティブなときに[表示]リボン タブの[UCS]パネルからアクセスできます。

追加の UCS コントロールには、UCS アイコンを右クリックすることでショートカットメニューから簡単にアクセスできます。ショートカットメニューは、必要に応じて[ユーザインターフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックスを使用して変更できます。

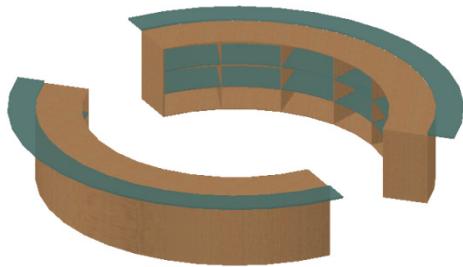


AutoCAD 2012 では、UCS コマンドから UCS にアクセスすると、UCS アイコンのダイナミックプレビューが表示されます。そのため、UCS のオプションが理解しやすくなり、必要な操作を行いやすくなります。

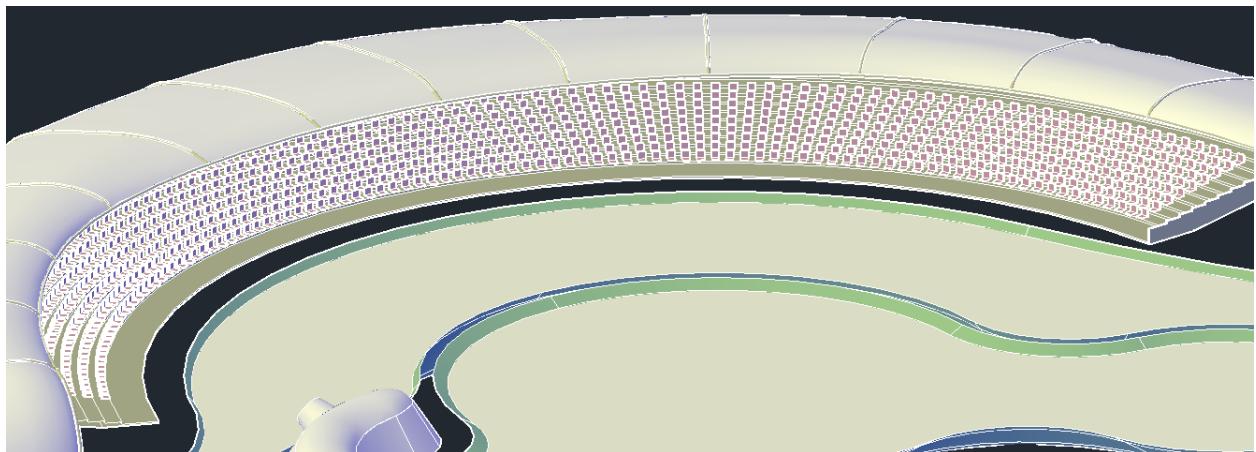


3D 自動調整配列複写

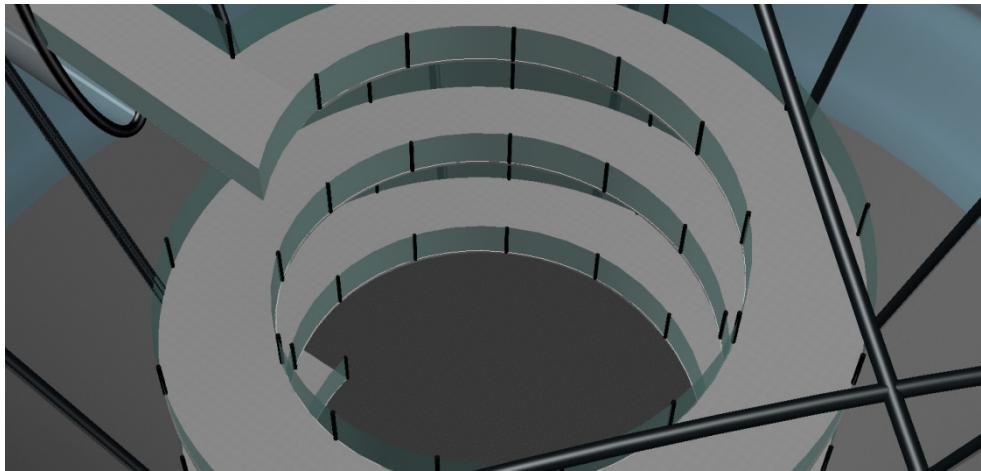
2D 図面にとって価値のある自動調整配列複写機能は、3D モデリングにとっても同様に有益です。矩形状、円形状、およびパスの 3 タイプの自動調整配列複写では、選択したオブジェクトを 3D 空間で配列複写できます。[レベル] オプションは、配列複写の作成中または作成後の Z 方向の要素数を指定するために使用します。



1つまたは複数の配列複写オブジェクトのレベルを作成したかどうかにかかわらず、行の高度の増分値を指定できます。既定と同様に行の高度の増分値がゼロに設定されている場合、すべての行は同じ高度で作成されます。ゼロ以外の正または負の値に設定されている場合、各行の高度はその値で増減されます。

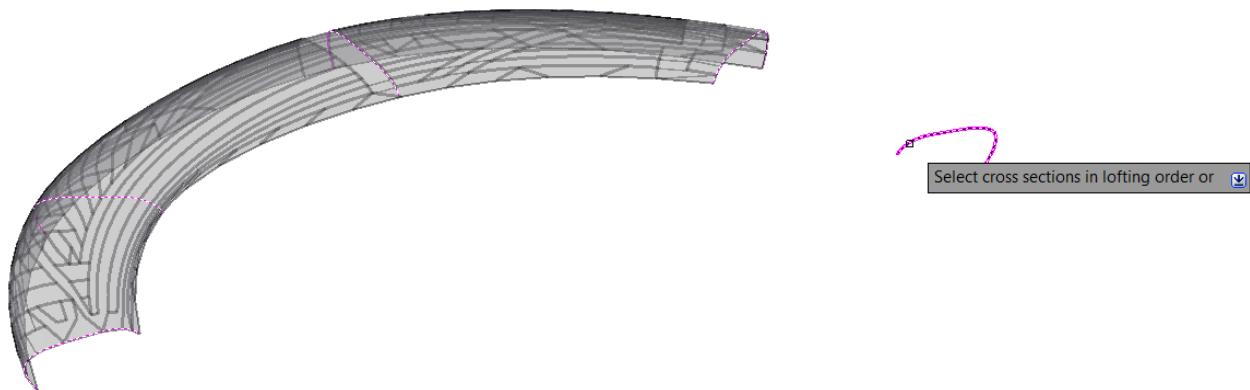


パス配列を作成する場合は、配列複写されるオブジェクトが垂直方向(Z 方向)を維持するか、またはパスに対して平行になるように調整するかを指定できます。

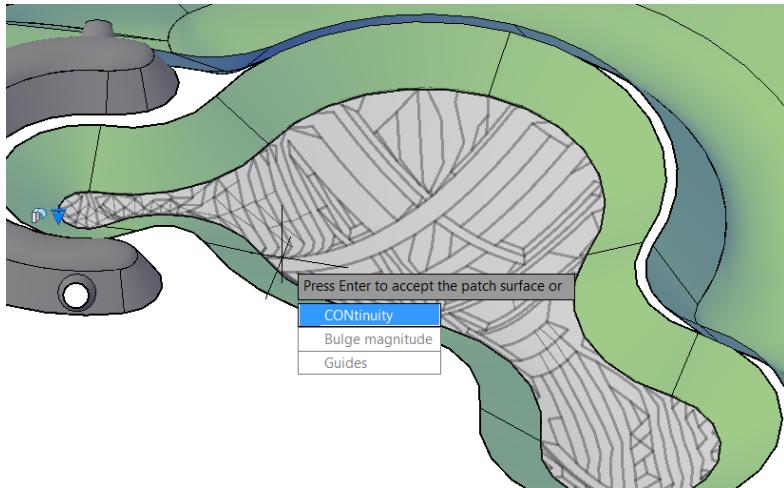


作成プレビュー

新しいプレビューは、作成途中のサーフェスまたはソリッドの視覚的なヒントを提供します。たとえば、ロフトされたソリッドまたはサーフェスを作成するために、輪郭を選択するたびに、結果として得られるオブジェクトの更新されたプレビューが表示されます。



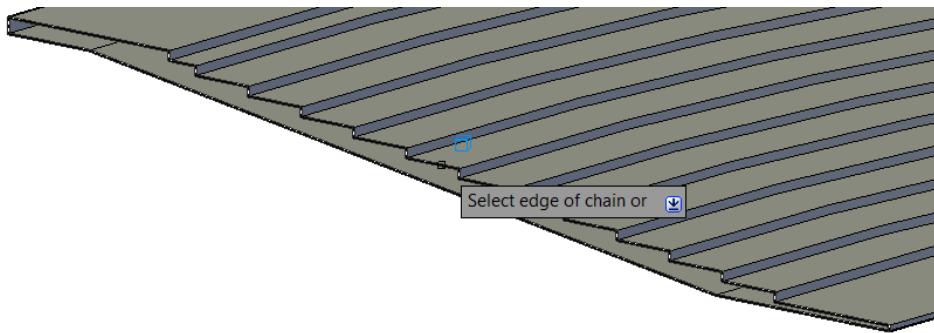
ロフトされたソリッドやサーフェスの他、プレビューは SURFBLEND、SURFPATCH、SURFFILLET、FILLETEDGE、CHAMFEREDGE、および LOFT コマンドに含まれています。このプレビューは、完成されたオブジェクトと見分けやすくするため、透過的に表示されます。透過性のレベルは、新しい PREVIEWCREATIONTRANSPARENCY 変数で制御できます。



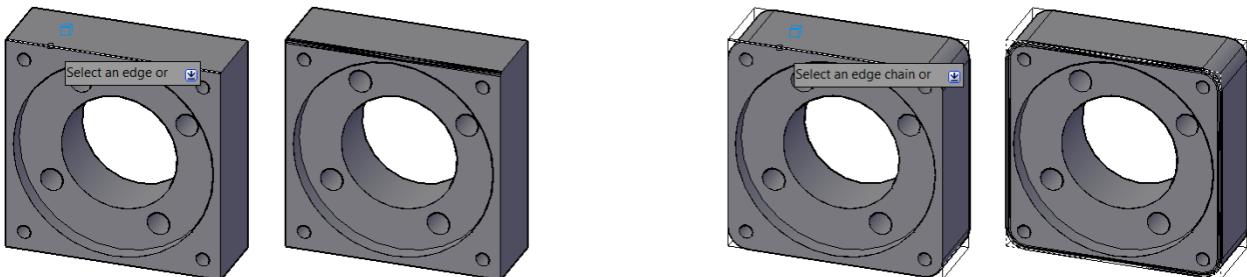
チェーン選択とループ選択

AutoCAD 2012には、連続する一連のエッジや曲線の選択プロセスを簡略化する新しい[チェーン]または[ループ]オプションが追加されました。

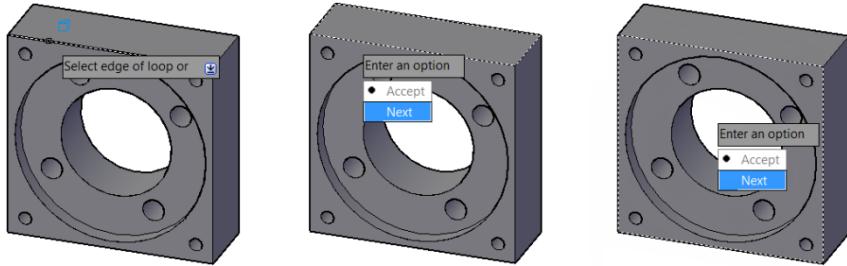
新しいチェーン選択オプションは、ソリッド内、メッシュオブジェクト内、サーフェス内、またはサーフェス間に、連続する一連のエッジが存在するかどうかを検出します。チェーンは、開いているか閉じているかのいずれかで、SURFPATCH[パッチサーフェス]、SURFBLEND[ブレンドサーフェス]、MESHCAP[メッシュの穴を閉じる]、FILLETEDGE[フィレットエッジ]、およびCHAMFEREDGE[面取りエッジ]コマンドで選択できます。



FILLETEDGEコマンドの[チェーン(C)]オプションは、連続するエッジを識別してフィレットします。たとえば、下図の左側の部品のコーナーは丸められていないため、フィレット操作は選択したエッジのみが対象になります。しかし、右側の部品のコーナーは丸められているため、[チェーン]オプションを使用すると、連続するエッジすべてが選択されてフィレットできます。

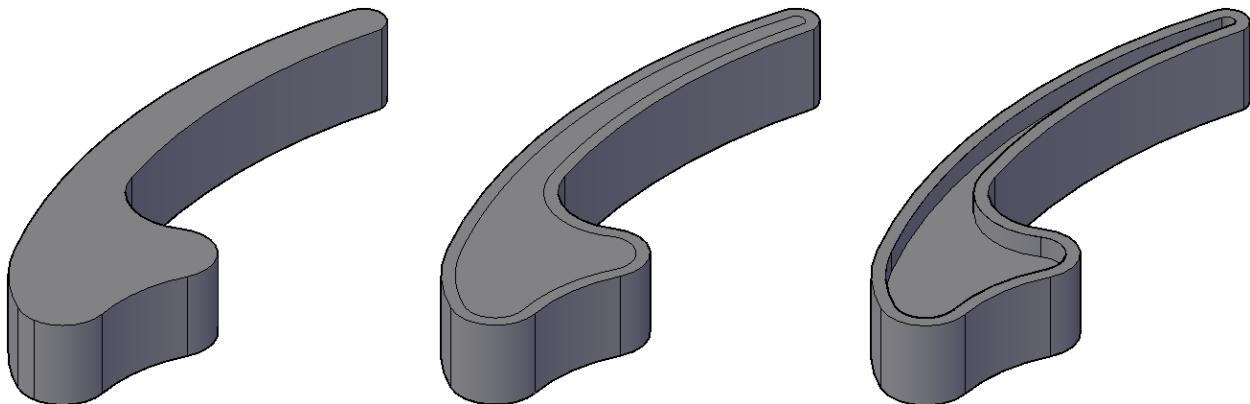


FILLETEDGE と CHAMFEREDGE コマンドには、[チェーン] オプションのほかに、[ループ] オプションもあります。ループは、閉じたチェーンと似ています。エッジの選択後は、複数のループから使用するループを選択できます。



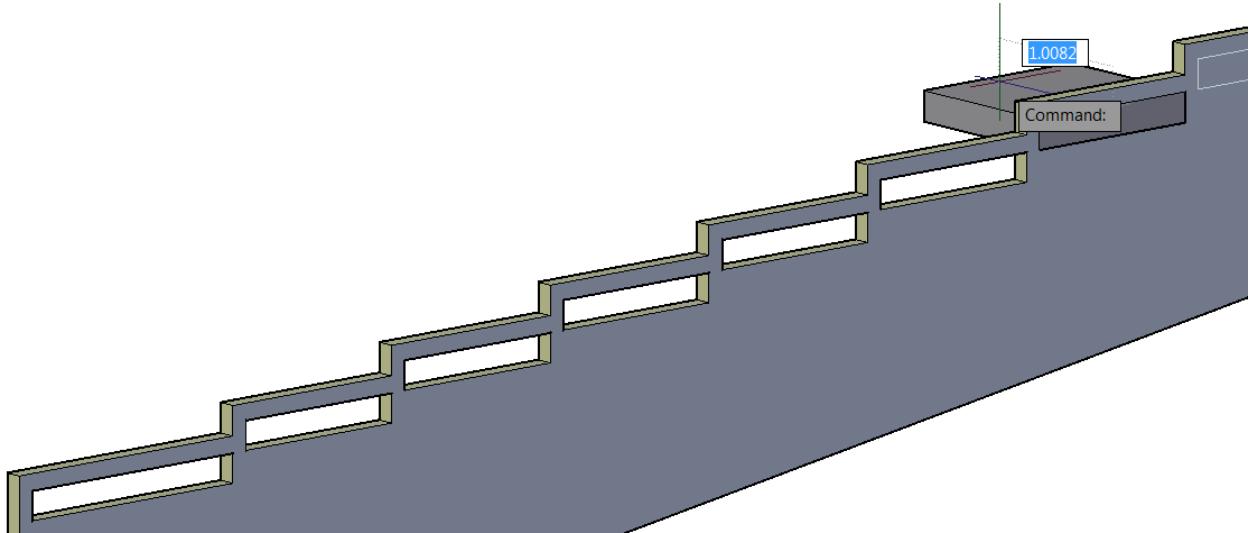
オフセット エッジ

[ソリッド編集] パネルにある新しい[オフセット エッジ]コマンドを使用すると、すべてのエッジが同一平面にある平面状の面またはサーフェスからオフセット曲線を作成できます。面を選択した後、面のエッジがカーソル位置に基づいて内側または外側にダイナミックにオフセットされ、ポリラインまたはスプラインが作成されます。オフセットの操作中に[コーナー(C)] オプションを使用すると、オフセット曲線のコーナーをシャープにするか丸めるかを指定できます。エッジをオフセットした後に、[境界引き伸ばし]コマンドを使用すれば、簡単に境界領域を追加したり、ソリッドから削除することができます。



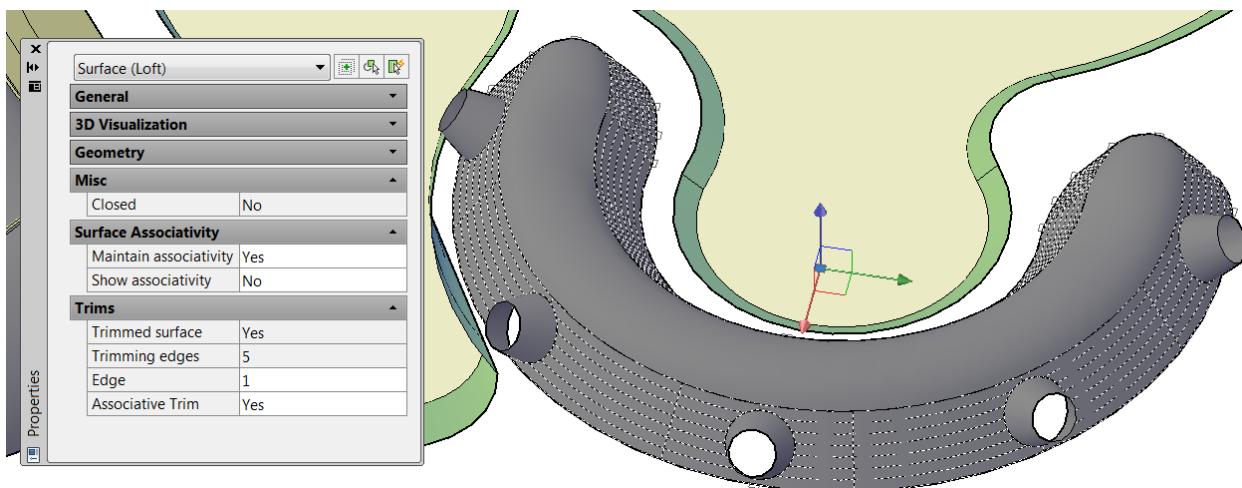
境界引き伸ばし機能

境界引き伸ばし機能は、ソリッドを作成、編集しやすくなる方法を提供します。ソリッドの境界領域をクリックするだけで、AutoCAD は押し出しソリッドをダイナミックに作成します。境界領域がソリッドの面である場合、押し出しがソリッドに追加または削除されます。AutoCAD 2012 では強力な境界引き伸ばし機能が更新され、コマンドを終了するまで繰り返されるため、一回の操作で何度もすばやく引き伸ばしを実行できます。



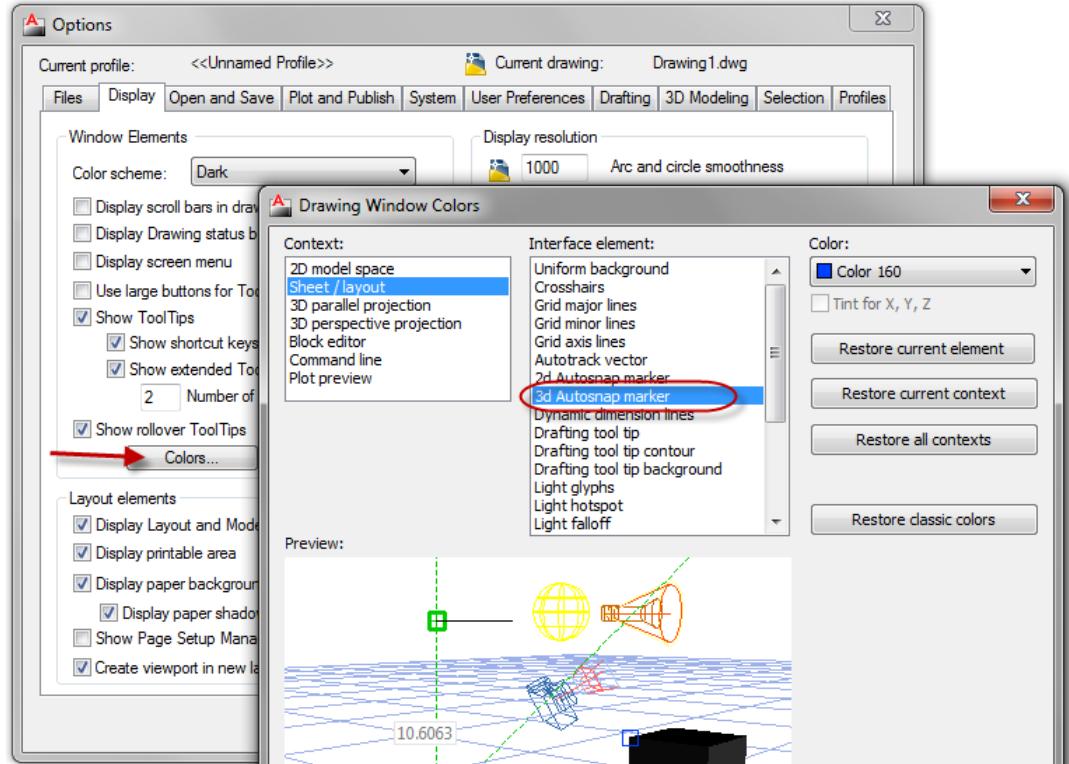
トリムされたサーフェスのプロパティ

トリムされたサーフェスの[プロパティ]ウィンドウがさらなる制御と柔軟性を提供するために更新されました。新しい[トリム]ペインには、選択したサーフェスのトリムプロパティが表示されます。このプロパティには、エッジを順番に選択し、図面内でエッジを強調表示するための[エッジ]プロパティも含まれています。新しい[自動調整トリム]プロパティは、現在のエッジが自動調整できるどうかを示します。任意のエッジの自動調整を解除することができます。



3D AutoSnap マーカー

[作図ウィンドウの色]ダイアログボックスにあるAutoSnapマーカーコントロールの名前は2D AutoSnapマーカーに変更され、3D AutoSnapコントロールが新しく追加されました。色分けすることで、2Dおよび3Dオブジェクトスナップを見分けやすくなります。



ソリッドの履歴

ソリッドの履歴は、AutoCAD 2012 では既定でオフになっています。ソリッドの履歴がオフになつていれば、ソリッドの面、エッジ、および頂点を直接編集できます。ソリッドの履歴を維持するには、SOLIDHIST システム変数を 1 に設定します。

3Dconnexion のサポート

AutoCAD 2012 で 3Dconnexion デバイスのサポートが強化されました。3D マウスの移動精度と制御性がさらに向上したため、よりすぐれた 2D および 3D ナビゲーションを体感できます。ウォークスルーモードとフライスルーモードでは、カメラ位置をモデルから遠ざけるときのナビゲーション速度がスピードアップします。オブジェクトモードでは、モデルの大きさや図面内のカメラ位置に関係なく、ズーム速度が均一に保持されます。

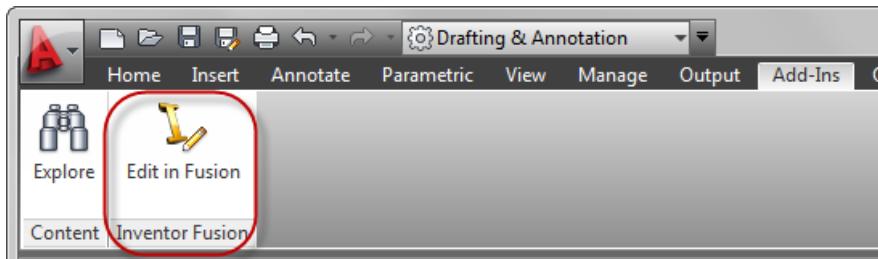
Autodesk Fusion

AutoCAD の 3D コンセプトデザインの機能に Autodesk® Inventor® Fusion が追加され、プロフェッショナルな 3D モデリングの使い勝手のよい新しい標準が導入されました。あらゆるソースのモデルを柔軟に編集および検証できるため、ネイティブ DWG 形式で利用できる 3D の利点を体感できます。Inventor Fusion には、比類のない使いやすさを実現する直感的なダイレクト操作機能が備わっており、制限なしにすばやく設計変更できるダイレクトモデリングツールが用意されています。1 つのデジタルモデル内で、ダイレクトワークフローとパラメトリックワークフローを融合することができます。

AutoCAD 2012 をインストールする際に、Autodesk Inventor Fusion 2012 のインストールを指定することができます。



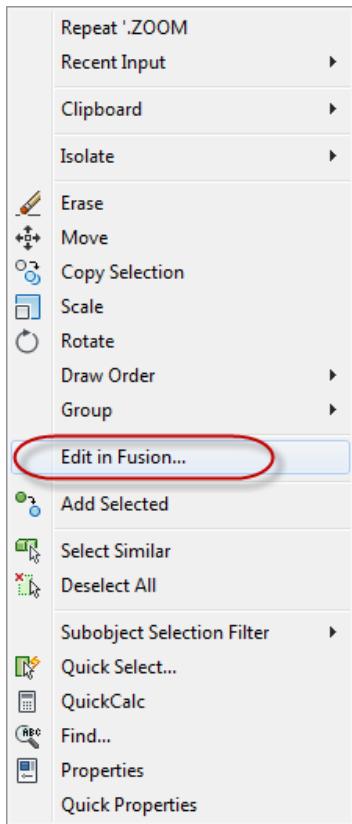
Fusionをインストールすると、AutoCAD 2012の[アドイン]リボンタブに[Fusionで編集]コマンドが表示されます。



このコマンドを使用すると、AutoCAD 図面で次の任意の 3D オブジェクトを選択して、それらを Autodesk Inventor Fusion 上で自動的に開いて継続編集することができます。

- 3D ソリッド
- 押し出しサーフェス
- ロフトサーフェス
- 平面サーフェス
- スイープサーフェス
- 回転サーフェス
- NURBS サーフェス

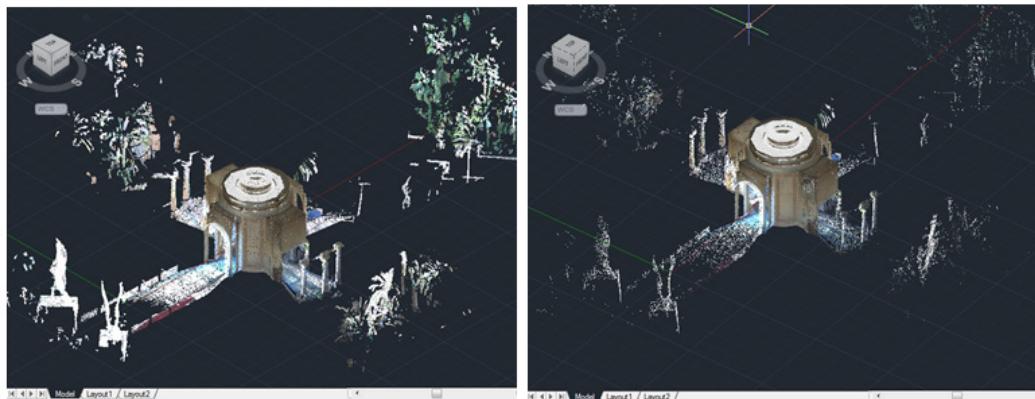
[Fusion で編集]は、これらのオブジェクト選択時の右クリックメニューにも表示されます。



Autodesk Inventor Fusionにより、形状変更の制御が可能な機能を駆使して、自由なダイレクトモデリングを試行することができます。設計変更に適合させるために、フィーチャをすばやく作成、削除、修正するなどして、独自の設計変更を行い、実験的なシナリオを検討できます。

点群のサポート

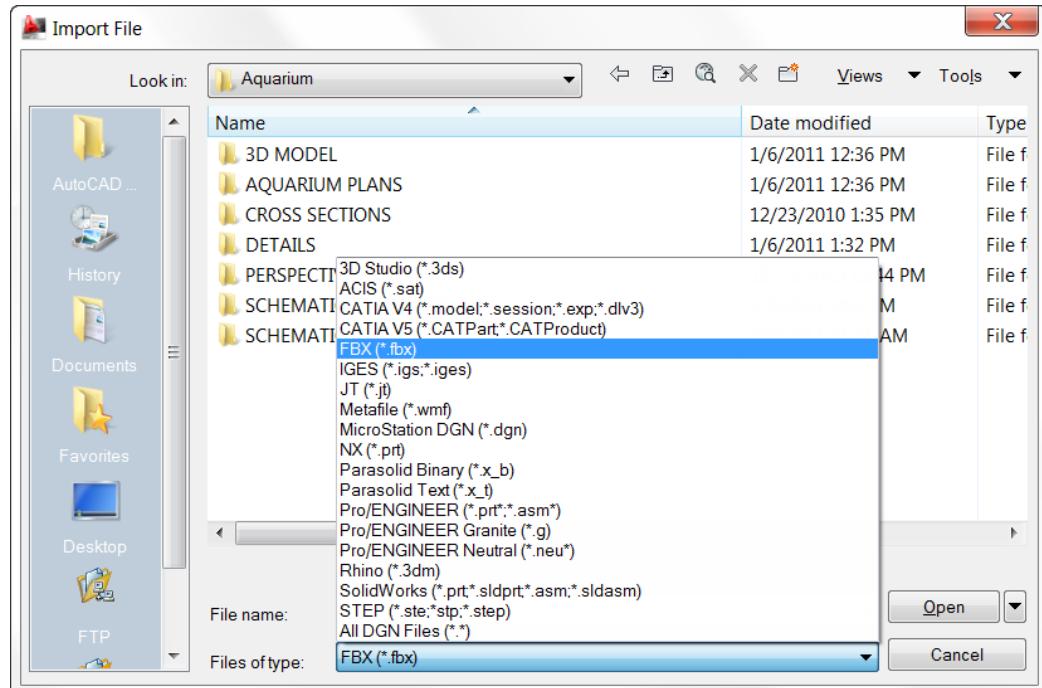
AutoCAD 2012で点群のサポートが強化されました。これには、ズームレベル変更時の最適化表示に加えて、PCG ファイル生成のための改善されたインデックス化アルゴリズムが含まれます。下図は、インデックス化された点群ファイルの拡大した細部の AutoCAD 2012(左)と AutoCAD 2011(右)の比較を示しています。



ドキュメント

3D モデルの読み込み

CATIA、NX、Parasolid、Pro/Engineer、Rhino、SolidWorksなどのさまざまなファイル形式を読み込み、これらを使用してAutoCADで設計ドキュメントの作成を開始できます。[読み込み]コマンドには、[挿入]リボンタブの[読み込み]パネルからアクセスできます。[ファイルの読み込み]ダイアログボックスの[ファイルの種類]ドロップダウンリストから、希望のファイル形式を選択できます。



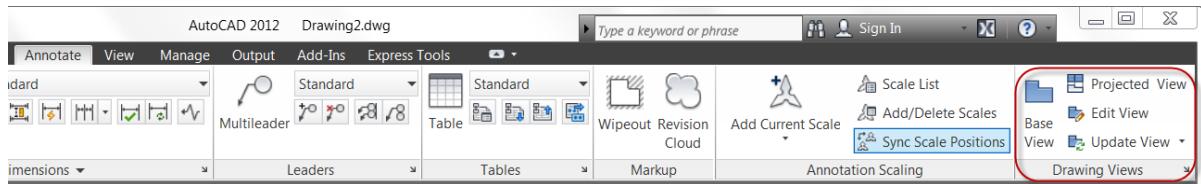
読み込み処理が進行している間、ステータスバーのトレイに読み込みアイコンが表示されます。読み込み処理の完了はバルーン通知によって示され、バルーン通知のリンクに、変換されたファイル名が表示されます。リンク上にカーソルを移動すると、ファイルの絶対パスとファイル名を確認できます。

これらの新しいファイル形式の読み込みは、サーフェス、ソリッド、2Dおよび3Dワイヤジオメトリに対応しています。データは完全なAutoCADジオメトリに変換され、ブロックとして図面に挿入されます。元のモデルのペーツとアセンブリは保持され、ネストしたブロックとして複製されます。読み込み後は、AutoCADの標準の編集コマンドを使用してデータを自由に修正し、新しいモデル図面化コマンドを使用して3Dモデル図面を作成できます。

モデルの図面化

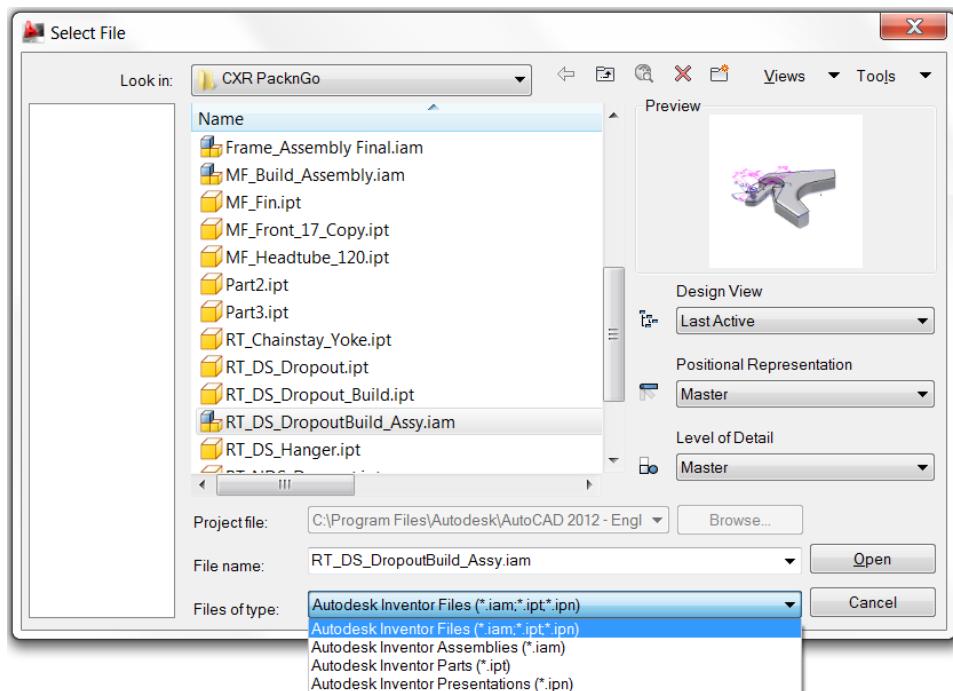
AutoCADやInventorなどのモデルをもとに、インテリジェントな図面を自動的に作成するため、作業時間を短縮できます。元のモデルが変更されると、図面ビュー、エッジの表示、位置が即座に更新されます。

モデルの図面化コマンドは、[注釈]リボンタブの[図面ビュー]パネルから使用できます。

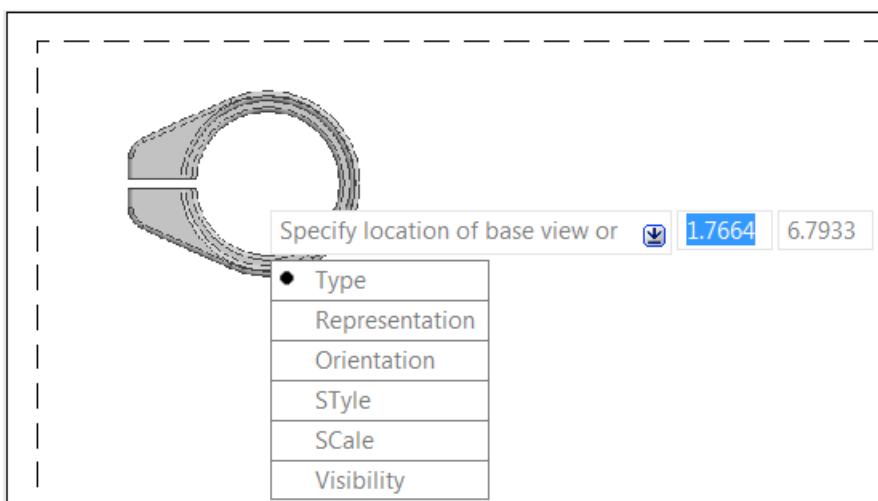


図面ビューの作成

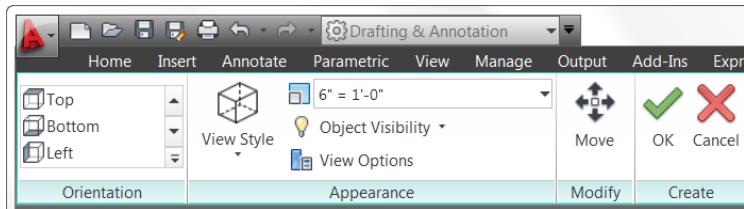
[ベースビュー]コマンドは、モデル空間の3Dソリッドおよびサーフェスから2Dビューを作成します。モデル空間にサーフェスもソリッドも存在しない場合、Inventor モデル(ipt、iam、ipn ファイル)を選択することができます。



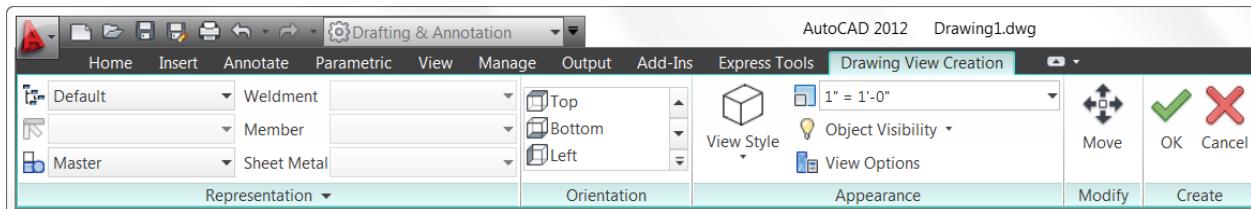
[ベースビュー]コマンドでは、モデルの縮小プレビューが自動的にカーソルに表示されます。図面レイアウトにベースビューを配置するときに、種類、方向、尺度などのオプションを指定できます。



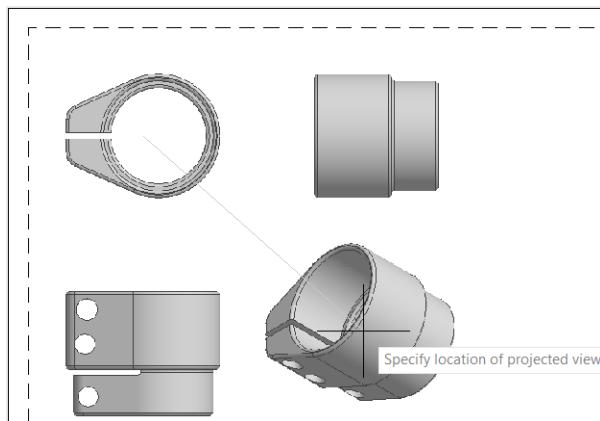
コンテキストリボンタブには、関連するコントロールが表示されます。このタブのコントロールは、モデルのソースが AutoCAD のモデル空間か Inventor によって異なります。



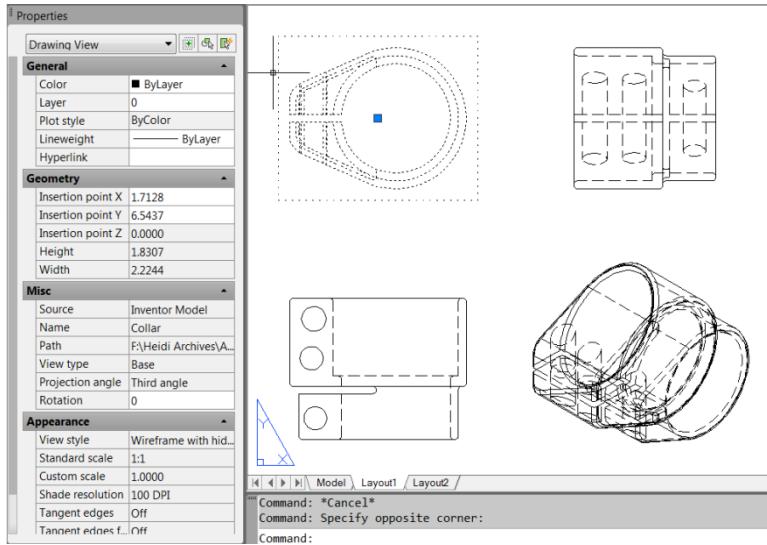
ベースビューのソースが Inventor モデルの場合、[図面ビュー作成]リボンタブに追加のパネルが表示され、モデルのリプレゼンテーションをさらにコントロールできるようになります。



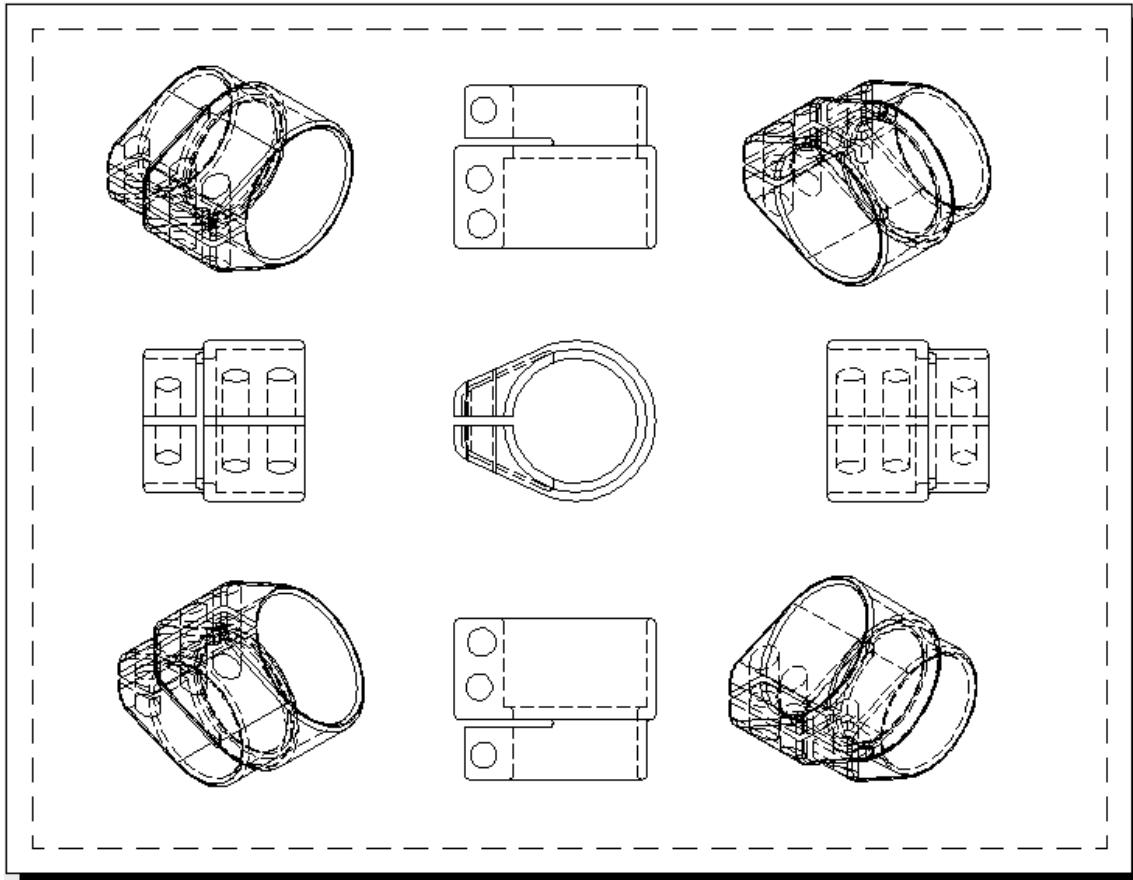
[種類(T)]オプションを[ベースのみ(B)]ではなく[ベースと投影(P)]に設定すると、ベースビューを配置した後に投影ビューを自動的に作成できます。カーソルを目的の位置にドラッグするだけで、適切なビューが自動的に作成されます。後で[投影ビュー]コマンドを使用すると、投影ビューを続けて追加できます。



各ビューは新しい図面ビュー オブジェクトになり、ビューポートに似た境界が含まれますが、この境界は印刷されません。図面に図面ビューが含まれている場合、ステータスバーのトレイにアイコンが表示されます。また、選択した図面ビューのプロパティは[プロパティ]パレットで確認したり修正できます。

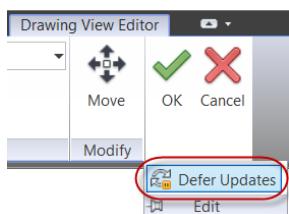


ベースビューの配置後には、投影ビューを作成できます。投影ビューは、既存のベースビューまたは投影ビューの単純な投影で、8種類の標準ビュー投影(4種類の直交投影と4種類のアイソメ投影)に対応しています。投影ビューは、ベースビューの投影タイプ(第一角法または第三角法)を使用して描かれます。投影ビューの作成時に、選択したビューと投影ビューとの間に親子関係が形成されます。既存の図面ビューオブジェクトは、最新のデータに更新されている限り、親ビューとして選択できます。選択したビューが親ビューになり、投影ビューが子ビューになります。親ビューの投影タイプ(第一角法または第三角法)と他のすべてのプロパティが、子ビューに継承されます。作成後は、子ビューの一部のプロパティを修正することができます。

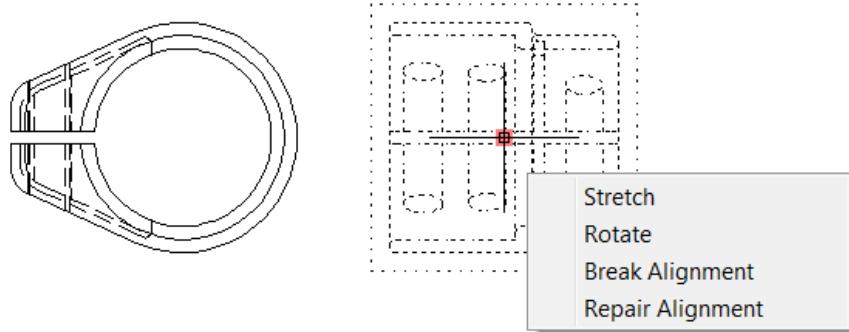


図面ビューの編集

図面ビューの作成後には、図面ビュー編集ツールを使用して簡単に修正することができます。既存のビューをダブルクリックすると、[図面ビュー エディタ]コンテキストリボンタブが表示されます。子ビューは親ビューからプロパティを継承しているので、親ビューを編集すると、その変更は親ビューだけでなくすべての子ビューにも適用されます。選択したビューが子ビューの場合、尺度とスタイルプロパティを親とは異なるように変更できます。変更は自動的に行われ、選択したビューと、選択したビューに従属しているすべての子ビューに即座に適用されます。[図面ビュー エディタ]の[編集]パネルのオプションを使用すると、更新を見送ることもできます。[更新を見送り]をオンにすると、複数の変更を1回のビューの計算内で行うことができるようになるため、パフォーマンスが向上します。選択したビューまたはその子ビューが最新のデータを反映していない旧式のビューの場合、それらは編集処理の一部として自動的に更新します。

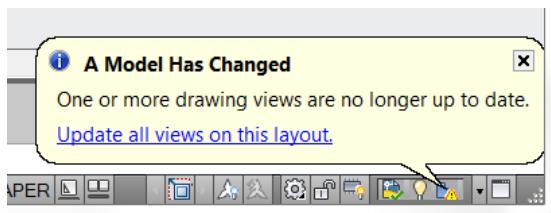


図面ビューを選択すると、中心に1つの多機能グリップが表示されます。カーソルをグリップに重ねると、メニュー オプションが表示され、ビューのストレッチや回転、直交投影ビューの位置合わせの解除や修復を行うことができます。

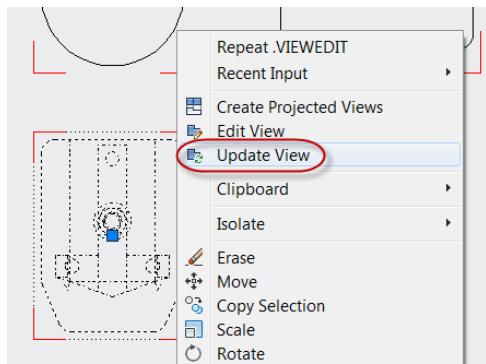


ビューの更新

図面ビューのソースとなる3Dモデルが変更されると、各種の通知が表示されます。通知には、未更新の旧式ビューであることを示すコーナーの鍵括弧、ステータスバートレイの[図面ビュー]アイコンに追加される警告マーク、およびステータスバートレイのアイコンから表示されるバルーン通知があります。

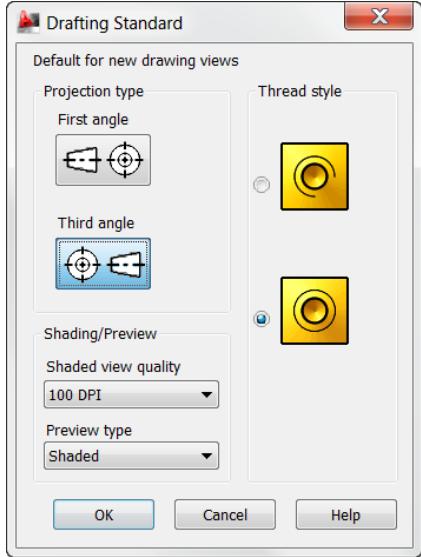


バルーン通知のリンクを選択することにより、レイアウト上のすべてのビューを簡単に更新できます。選択したビューのみを更新したい場合は、リボンおよび右クリックメニューから使用可能な[ビューを更新]コマンドを使用できます。



作図標準の適用

作図標準は、図面ビューのリプレゼンテーションを含む図面化のほぼすべての面に影響します。[作図標準]ダイアログ ボックスを使用して、新しい図面ビューの作図標準を指定できます。このダイアログ ボックスには、[図面ビュー]リボン パネルの右下コーナーのダイアログ ボックスランチャーからアクセスできます。投影法として第一角法および第三角法を指定することができます。これらは、ISO および ANSI 規格に対応しています。ねじスタイルでは、Inventorのねじフィーチャを図面ビューにどのように表示するかをコントロールします。シェーディング ビュースタイルの表示品質を指定できます。また、プレビュータイプでは、図面ビューの作成時にシェーディングされたプレビュー イメージではなく境界ボックスが表示されるため、特に大規模なモデルではパフォーマンスを向上させることができます。



[作図標準]ダイアログ ボックスのコントロールに加えて、図面ビュー機能は、隠線など、投影されるジオメトリを組織化するために、自動的に画層も生成します。

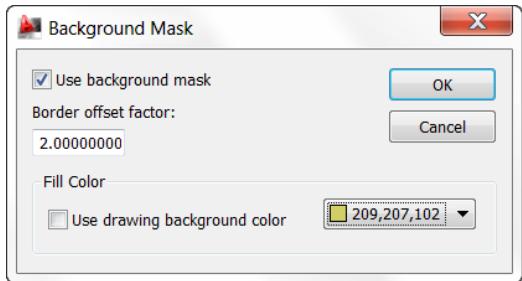
レイアウトの書き出し

レイアウト書き出しツールは、AutoCAD 2012 の新しい2D ビュー機能に対応するように更新されました。このツールには、アプリケーションメニューから[名前を付けて保存]>[レイアウトを図面として保存]を選択することによってアクセスできます。

注釈

マルチ テキストの強化

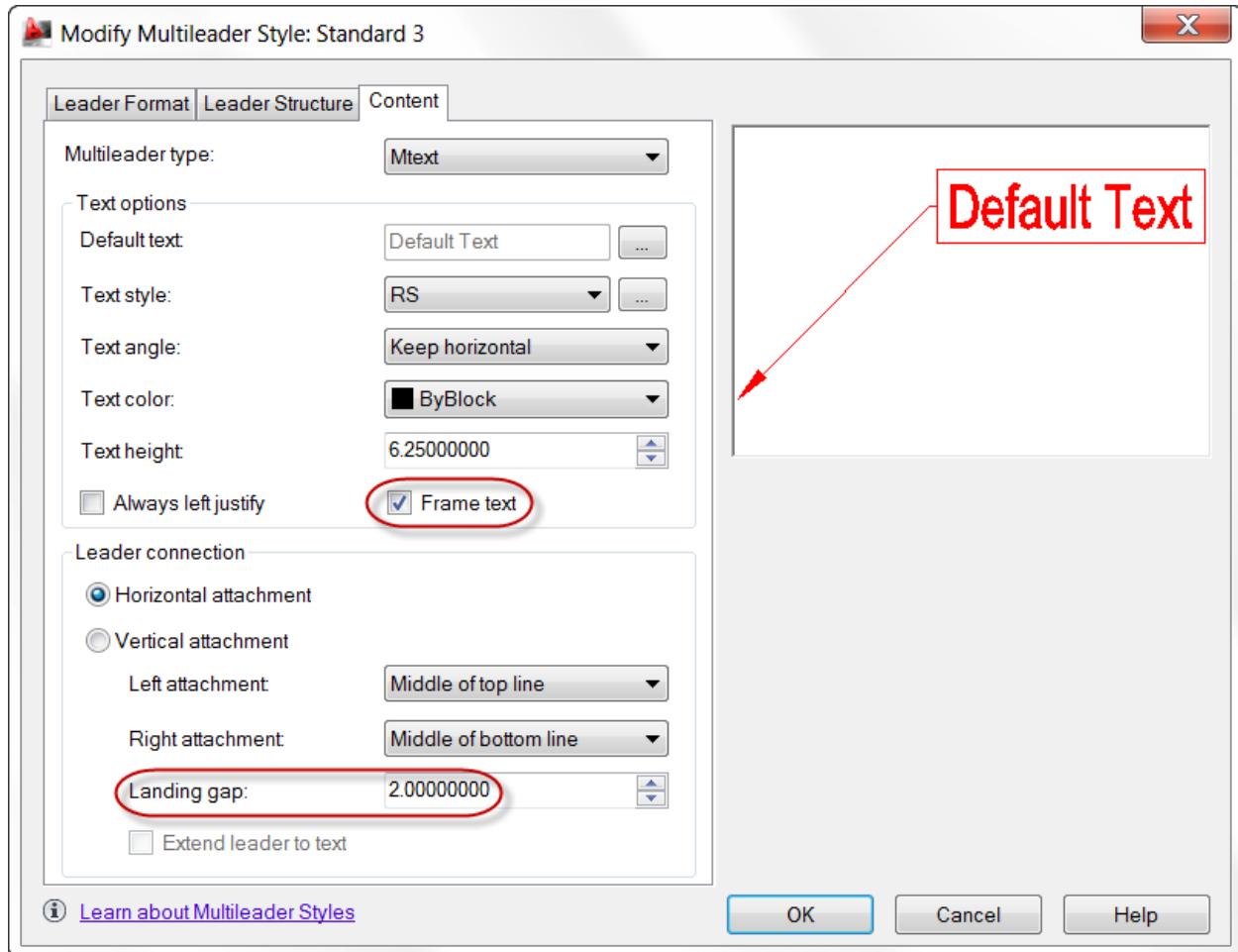
マルチ テキストの背景マスクは、塗りつぶし色と境界線のオフセット要素が既定の赤と1.5に戻るのではなく、最後に使用した設定を記憶するように更新されました。



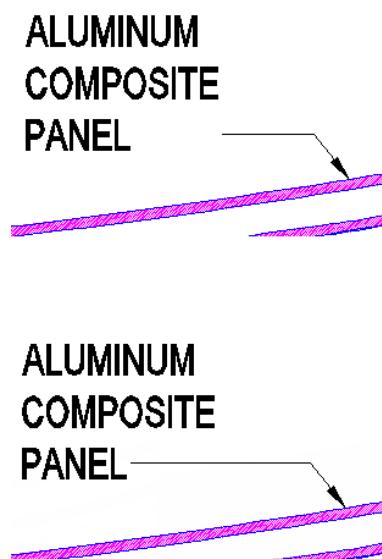
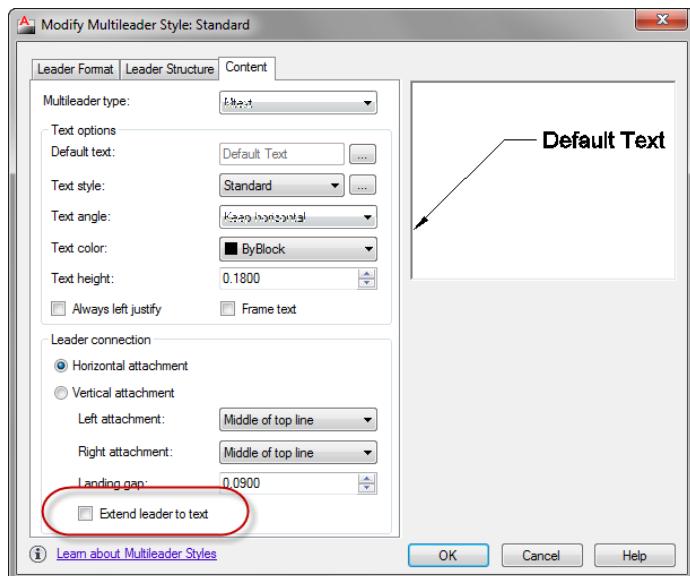
マルチ引出線の強化

引出線をさらにコントロールできるように、マルチ引出線の文字と文字枠との間隔を変更できるようになりました。引出線を文字境界ボックスまでではなく、文字の位置まで延長することもできます。マルチ引出線のこれらの強化機能は、[マルチ引出線スタイルを修正]ダイアログ ボックスから使用できます。

[文字を枠で囲む]をオンにしている場合、[参照線との間隔]に文字と文字枠間の距離を指定します。

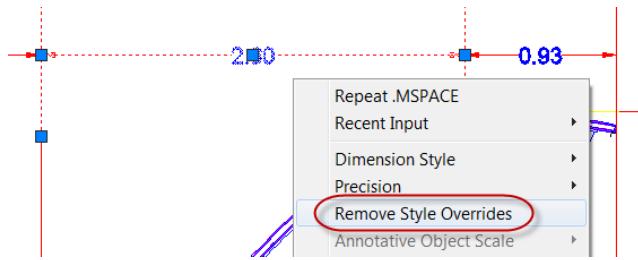


新しい[引き出し線を文字に延長(X)]コントロールをオンにすると、文字の境界ボックスまでではなく、文字まで引出線を延長できます。



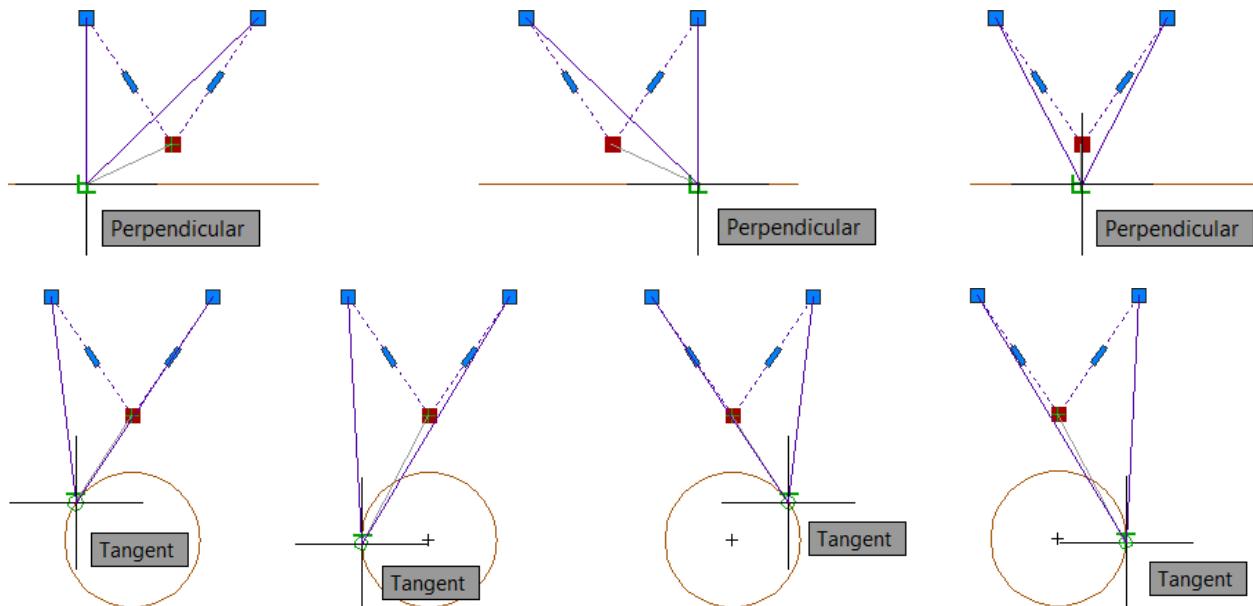
寸法の右クリック メニュー

寸法を選択して右クリックすると、[優先スタイルを除去]オプションが表示されます。



オブジェクトスナップの強化

AutoCAD 2012では、垂線および接線オブジェクトスナップの動作が強化され、柔軟性が向上しました。線分の端点、ポリラインの端点、またはポリラインの頂点をグリップ編集するときに、カーソルの位置に基づいて複数のスナップ点から移動先の点を選択できます。すなわち、AutoCADはオブジェクトが接する、または、直交するオブジェクトスナップ点と、選択したグリップを基準として接点または直交点を検出します。オブジェクトのカーソルを移動すると、使用できる個々の場所でオブジェクトスナップ記号が表示されます。

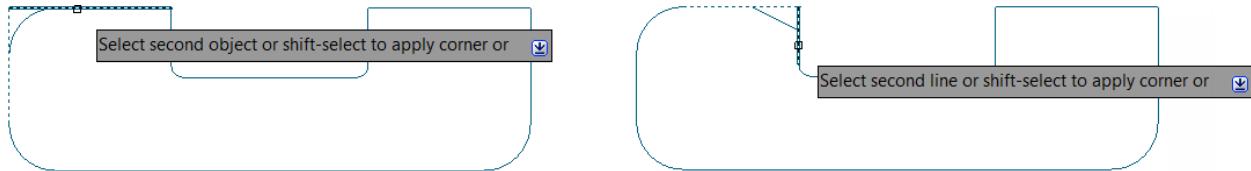


直交または接線オブジェクトスナップを適用する際に推測拘束を有効にしておくと、対応する幾何拘束が自動的にオブジェクトに与えられます。

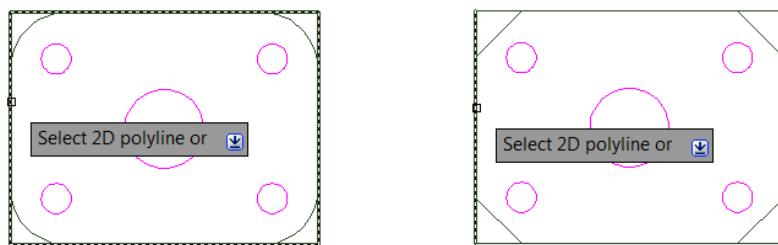


フィレット、面取り、ブレンド、結合

フィレットと面取りの選択時に2番目のオブジェクトにカーソルを移動すると、フィレットと面取りのプレビューが表示されます。これにより、コマンドを完了する前に、半径、または、距離の値を確定および変更できるようになりました。



[ポリライン(P)]オプションを使用すると、ポリライン全体にフィレット円弧または面取り線分のプレビューが表示されます。



期待したプレビューが得られない場合には、操作を完了する前に、フィレットの半径や面取りの距離、または、角度を編集することができます。

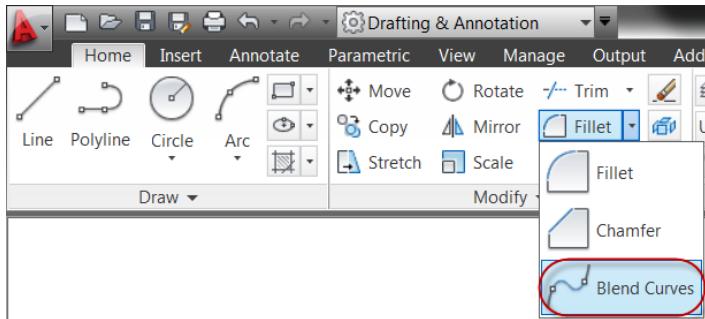
[フィレット]コマンドは、スプライン オブジェクトのフィレット処理をサポートするようになりました。



新しい[ブレンド曲線]コマンドを使用すると、2つの曲線間に接線連続性またはスムーズ連続性のあるスプラインオブジェクトを自動的に生成できるので、図面の作成時間を短縮できます。このコマンドは、線分、円弧、2D および 3D ポリライン、スプライン、らせん、および橢円弧に対して使用できます。



[ブレンド曲線]コマンドには、[ホーム]リボン タブの[修正]パネルからアクセスできます。



JOIN[結合]コマンドは効率化が図られ、オブジェクトの交差選択やクリック選択などの一般的な選択方法を使用して任意の順序で選択した複数のオブジェクトを、自動的に結合できるようになりました。最初にソースオブジェクトを選択する必要はなくなりました。

スプラインの強化

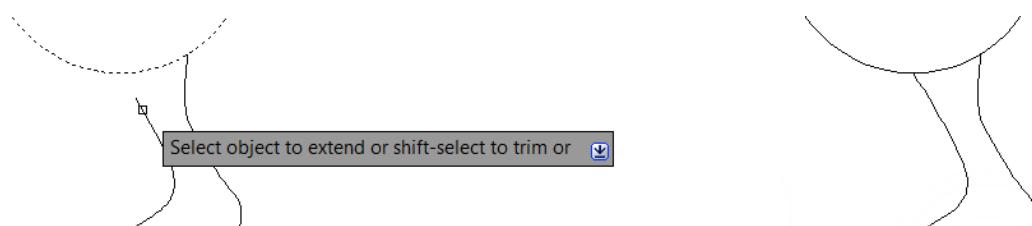
AutoCAD 2012 のスプラインは、周期スプラインをサポートするように更新されました。スプラインに[閉じる]オプションを指定すると、起点から終点までのC2の連続性がある周期スプラインが生成され、新しい周期プロパティが[プロパティ]ウインドウに表示されます。閉じたNURBS サーフェスを再構築する場合、周期動作もサポートされます。分析サーフェスをNURBS サーフェスに変換すると、サーフェスの終了条件が許容されている場合、周期 NURBS サーフェスが作成されます。

AutoCAD 2012 では、スプラインのフィット点をグリップ編集するときの制御性が向上し、柔軟で直感的な動作が可能になりました。さらに、[方式]を[フィット]に設定したときに[プロパティ]パレットに表示されるスプラインのノットパラメータプロパティは、読み取り専用のテキストフィールドからドロップダウンリストに変更されました。このリストでは、弦、平方根弦、または均一のノットパラメータを指定できます。ノットパラメータ値の変更は、スプラインの制御点の編集からスプラインのフィット点の編集に切り替える場合に役立ちます。フィット点を通過するため、スプライン形状の制御性が高くなります。

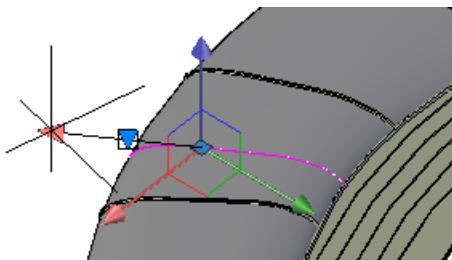
[スプライン編集]コマンドで[フィットデータ]オプションを選択した場合、[リンク]オプションを利用できるよう機能が追加されました。



[延長]コマンドが強化され、延長するオブジェクトとしてスプラインを選択できるようになりました。スプライン自身も拡張され、さらに元のスプラインと連続している曲率が維持されます。

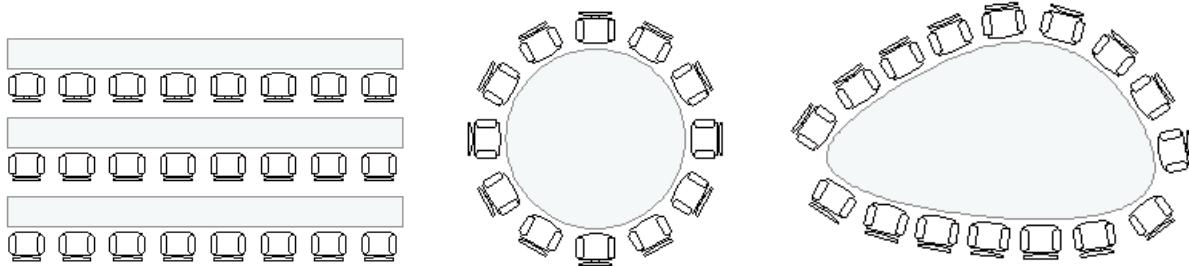


3DEDITBAR[制御点編集バー]コマンドはスプラインをサポートするように強化され、スプラインの選択時に右クリックメニューからアクセスできるようになりました。曲線上にあるポイントの位置の移動、ポイントの接線の大きさの変更、およびポイントに相対する接線の方向の変更を行うことができます。

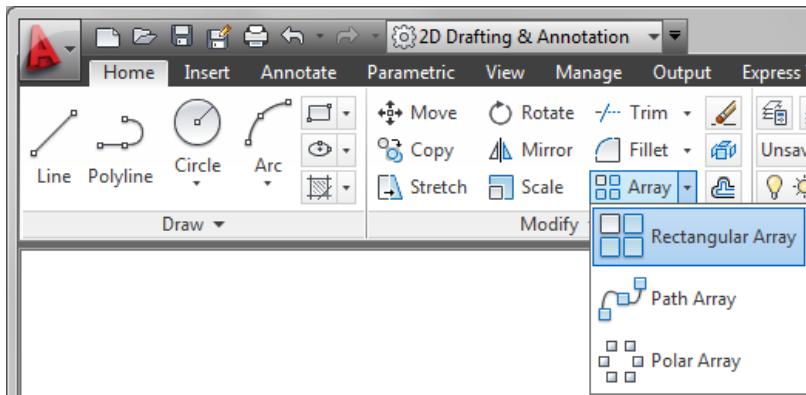


2D 配列複写機能

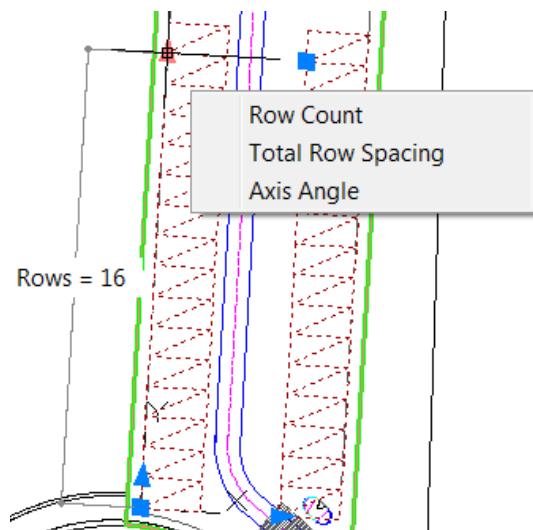
ビルの窓や橋のトラス構造のような用途のために、配列複写されたオブジェクト間の関係性を確立して維持できるようになったため、貴重な修正時間を短縮できます。さらに、指定したパスに沿ってオブジェクトを配列複写できるようになったため(矩形状や円形状に配列複写するのではなく)、コンセプトデザインまたは図面完成までの時間をさらに短縮できます。



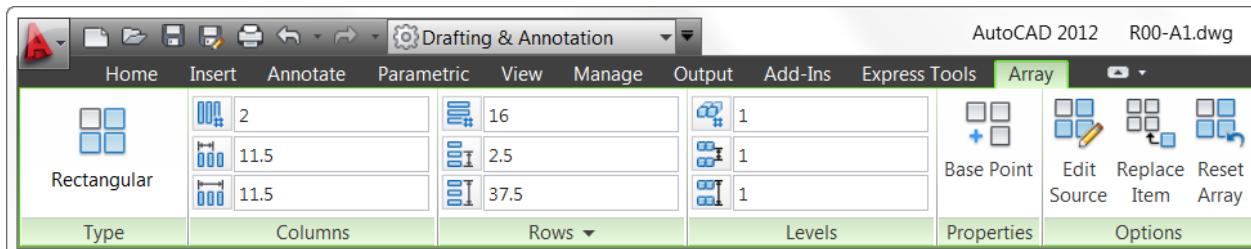
[ホーム]リボン タブの[修正]パネルから新しい[配列複写]コマンドにアクセスできます。



新しい配列複写機能を使用すると、配列複写されたオブジェクト間の一連の関係を確立し維持できます。配列複写を作成すると、配列複写プロパティを視覚的に編集するためのグリップ付きのプレビューが表示されます。また、配列複写の作成後でも、[プロパティ]パレットまたは多機能グリップを使用して編集することができます。

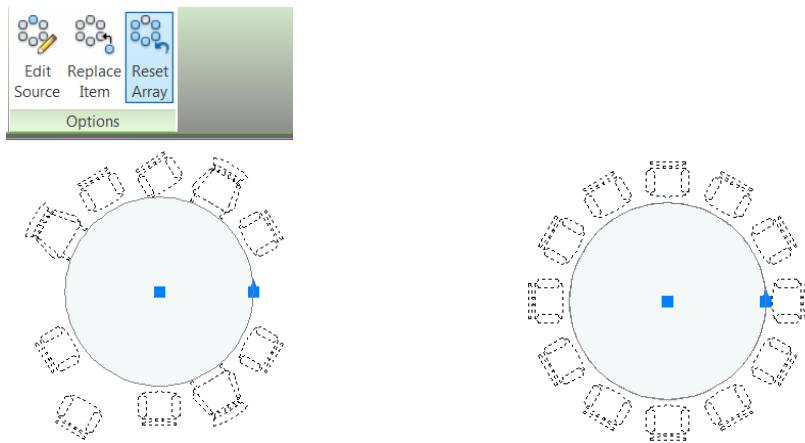


配列複写オブジェクトを選択すると、コンテキストリボンタブと右クリックメニューから追加のオプションを使用できるようになります。

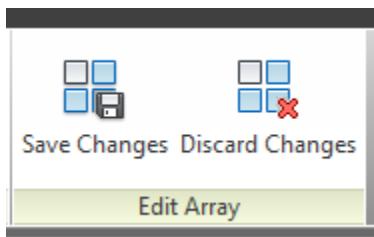


配列内の個々の項目を修正、削除、または形状を変更するには、[Ctrl]キーを使用して目的のオブジェクトを選択します。その後は、使い慣れたAutoCAD編集コマンドを使用して、選択したオブジェクトの削除、移動、回転、または尺度変更を行うことができます。また、[項目を置き換え]コマンドを使用して、選択した配列複写項目のインスタンスを他のオブジェクトに置き換えることもできます。オブジェクトを変更しても、そのオブジェクトと配列複写との関連付けは維持されるため、個々のオブジェクトに変更を再度適用しなくとも、配列

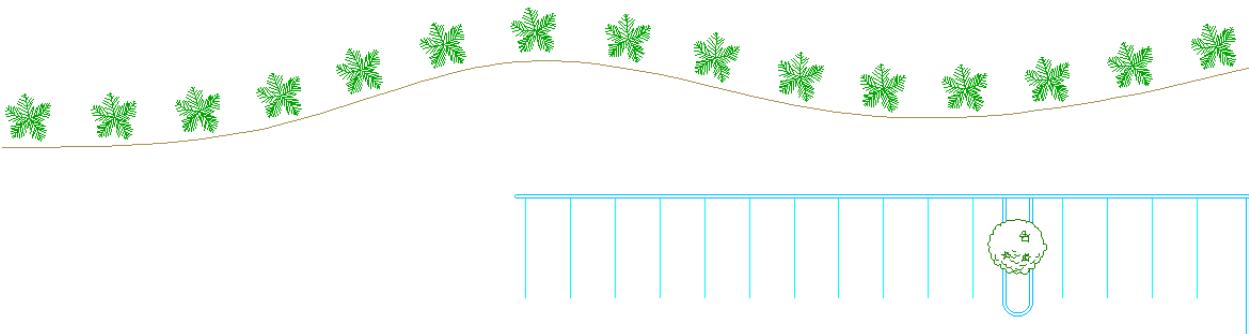
複写プロパティを変更できます。必要に応じて、リボンまたは右クリックメニューの[リセット]コマンドを使用して、いつでも既定のサイズと位置に戻すことができます。



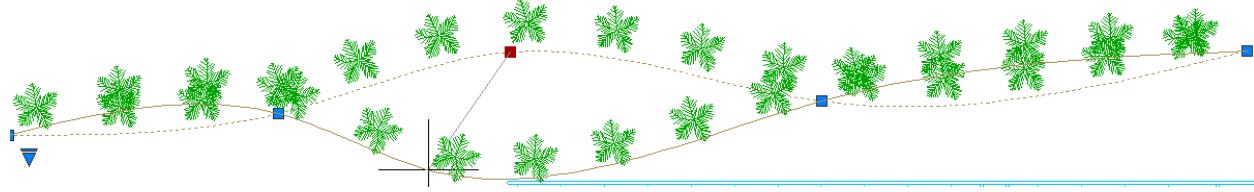
配列複写されたすべてのオブジェクトの外観を変更する場合でも、最初から作図操作をやり直す必要はありません。配列複写元のオブジェクトをインプレイス編集できます。AutoCADの多くの作図や編集コマンドに加え、[配列複写]編集コンテキストタブが自動的に表示されます。ソースジオメトリの編集後にジオメトリを更新したくなければ、変更内容を破棄できます。



強力な自動調整配列複写機能では、従来の矩形状配列複写と円形状配列複写に加え、新しいパス配列複写も適用できます。パス配列複写を使用すると、指定したパスに沿って要素を均等に分散できます。指定した数の要素をパスに沿ってフィットさせるのではなく、要素間に特定の距離を指定する場合、[計測]オプションを使用できます。一方、要素の間隔にかかわらず、特定の数の要素が必要な場合、分割オプションを使用できます。

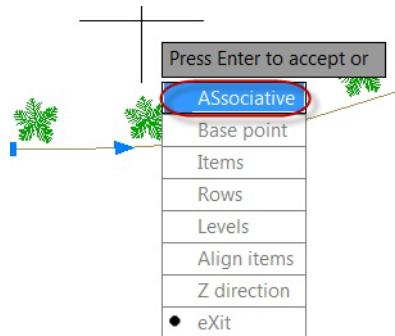


基点オプションを使用して、パスに相対する、配列複写された要素の位置の制御もできます。配列複写されたオブジェクトの基点がパスまたはオフセットのどちらにあるかにかかわらず、要素はパスに関連付けられます。パスが変化すると、要素は自動的に更新されます。



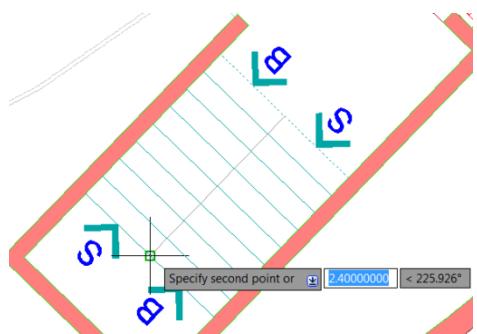
以上の強力な配列複写機能に加え、必要な多くのプロパティがパラメータ化され、パラメータと式をサポートするようになりました。

配列複写された要素間の関連付けがない従来の配列複写を作成する場合には、作成時に[自動調整]オプションを[いいえ]に設定します。既存の配列を分解しても、自動調整機能を解除できます。



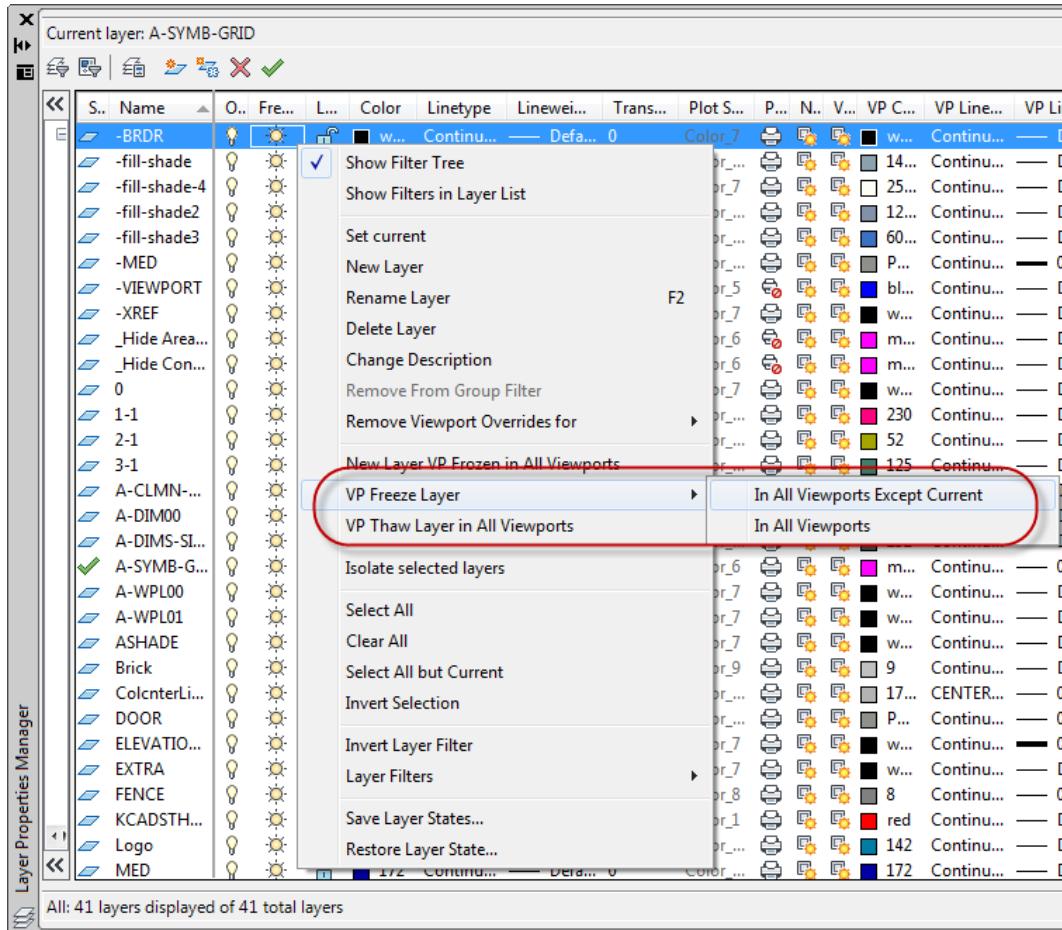
複写コマンド

COPY[複写]コマンドに、直線状の非自動調整配列を作成できる新しい[配列(A)]オプションが追加されました。指定した複写の個数間の距離を入力するか、指定した 2 点間でフィットする複写の個数を入力できます。



画層の強化

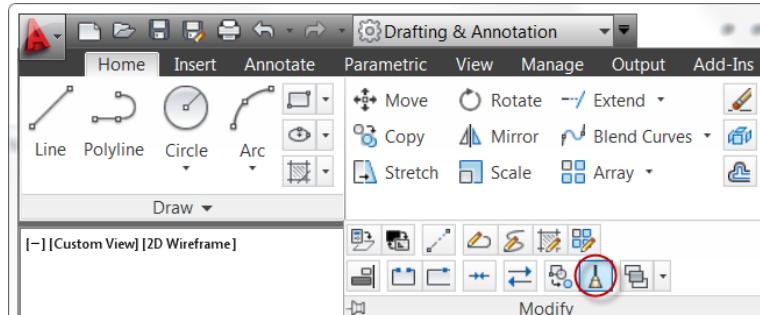
新しい画層の管理オプションを使用すると、現在のビューポート以外のすべてのビューポートで、指定した画層を簡単にフリーズできます。画層プロパティ管理の右クリック メニューまたは VPLAYER コマンドの [フリーズ] オプションからこの機能にアクセスできます。



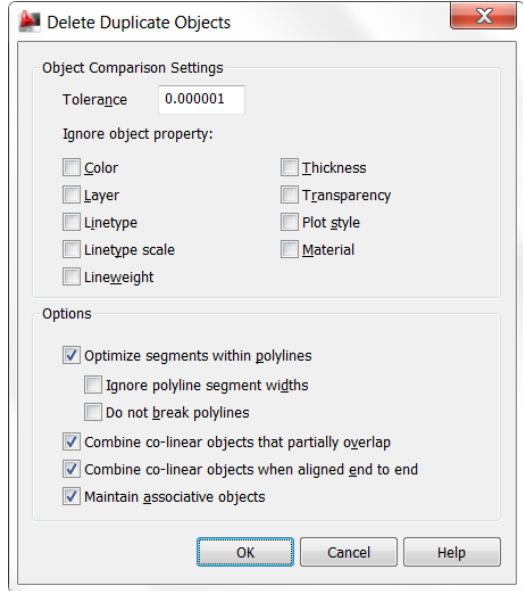
重複オブジェクトの削除

[重複オブジェクトを削除]コマンドを使用すると、重複したジオメトリまたは不要なジオメトリを削除して、図面を整理できます。この機能は、Express Tools 内の OVERKILL コマンドとして AutoCAD に初めて導入され、このリリースで強化されて AutoCAD の標準コマンド群に統合されました。

[重複オブジェクトを削除]ツールには、[ホーム]リボン タブの[修正]パネルからアクセスできます。



[重複オブジェクトを削除]ダイアログ ボックスでは、厚さや透過性など、無視するオブジェクトプロパティを指定できます。追加されたコントロールによって、ポリラインがあるセグメントの最適化、一部またはすべてが重複する同一線上のオブジェクトの組み合わせ、および関連オブジェクトの維持を行うことができます。



コミュニケーション

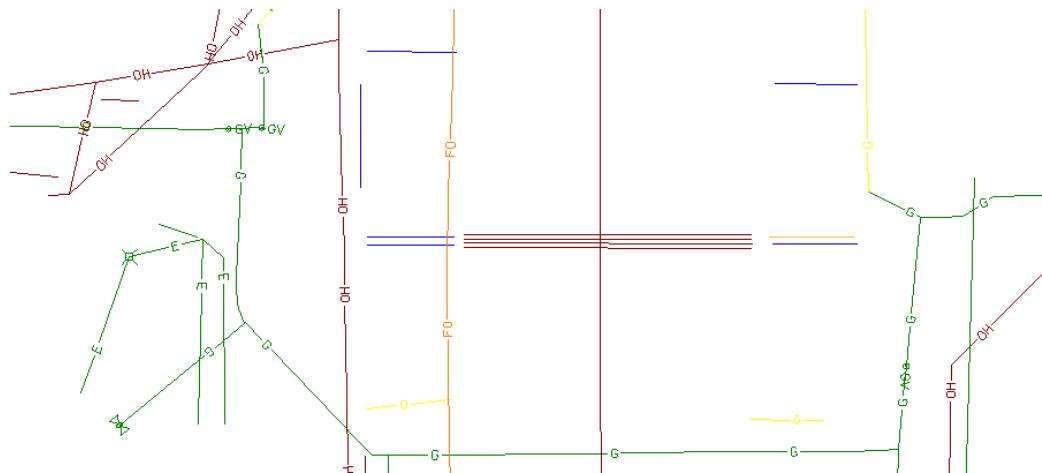
ラスター ファイルのサポート

AutoCAD 2012 では、図面ファイル内で使用されるラスターイメージのサポートが強化され、柔軟性が向上しました。衛星画像形式や標高形式などの Raster Design のイメージを含む図面を開くと、自動的に AutoCAD 2012 に表示されます。さらに、AutoCAD 2012 の[アタッチ]および[イメージアタッチ]ツールには、これまでサポートされていたラスター ファイル形式に加えて次のイメージファイルがサポートされました。

形式	説明	ファイル拡張子
DDS	Microsoft DirectDraw サーフェス	.dds
DOQ	USGS Digital Orthophoto Quads (USGS デジタル正射写真区画)	.doq
ECW	Enhanced Compression Wavelet (拡張圧縮ウェーブレット)	.ecw
HDR	ハイダイナミックレンジ イメージ	.hdr
JPEG2000	JPEG(Joint Photographic Experts Group)によって作成されたウェーブレットベースの圧縮規格	.jp2、.j2k
MrSID	Multiresolution Seamless Image Database (複数解像度シームレス イメージ データベース)	.sid
NITF	National Imagery Transmission Format (ナショナル イメージ転送形式) 注: 標高データを含む NITF ファイルでは、AutoCAD Raster Design が必要になります。	.nitf
OpenEXR	Industrial Light & Magic のハイダイナミックレンジ イメージ	.exr
PSD	Adobe Photoshop ドキュメント	.psd

DGN のサポート

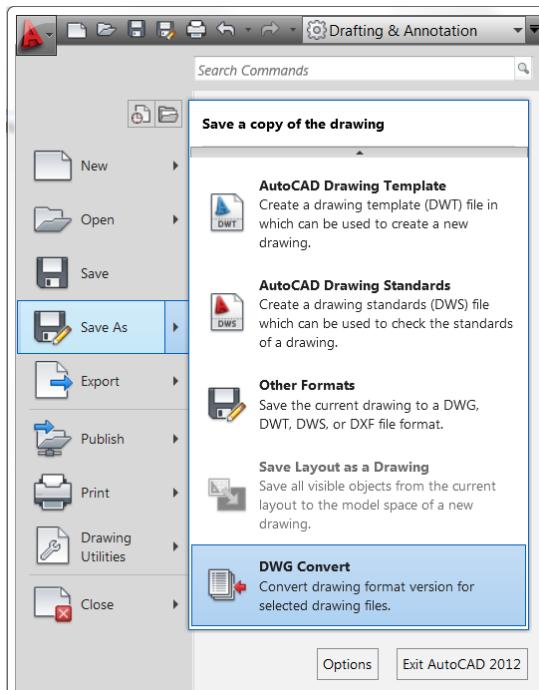
AutoCAD 2012 で、DGN ファイル内での複雑な線種のサポートが強化されました。DGN V8 ファイル形式で読み込んだり書き出した場合も、複雑な線種が保持されるようになりました。



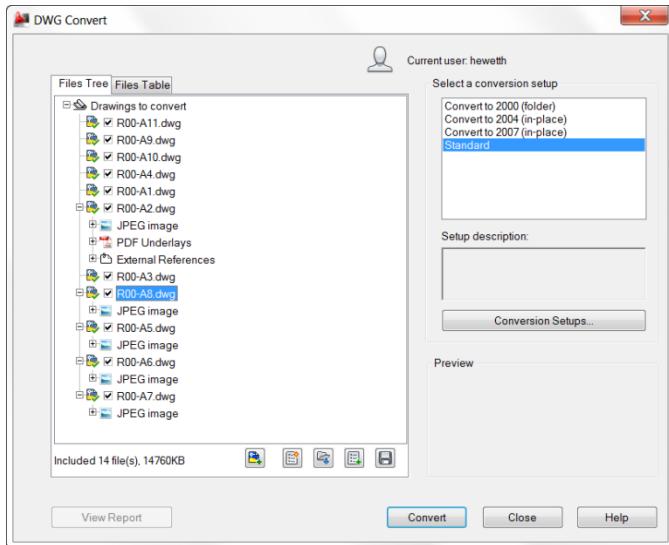
DWG 変換

共同作業しやすくするため、DWG 変換ツールを使用すると AutoCAD DWG ファイルを R14、2000、2004、2007、および 2010 の任意の DWG 形式に変換できるようになります。ファイルはバッチ変換できるため、古いファイル ライブラリをすばやく最新の状態にできます。

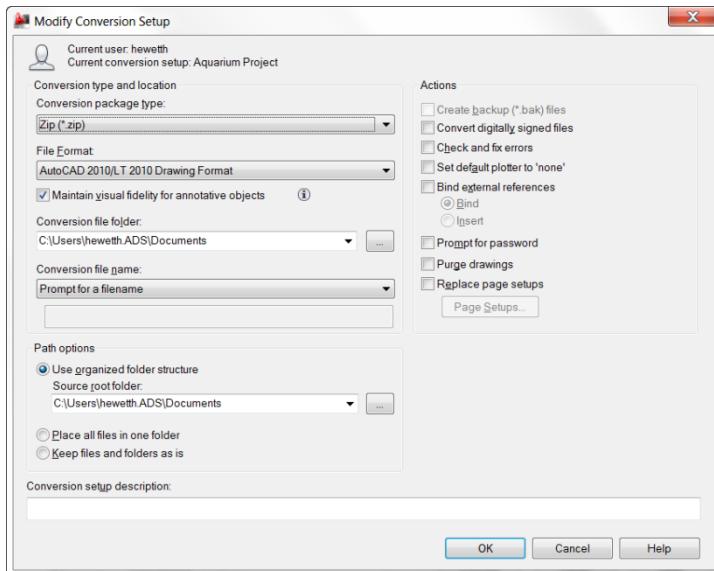
DWG 変換ツールには、AutoCAD ウィンドウの左上隅にある[アプリケーション]メニューから簡単にアクセスできます。



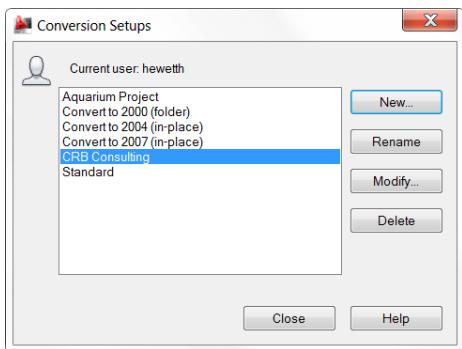
[名前を付けて保存]>[DWG 変換]を選択し、[DWG 変換]ダイアログ ボックスを表示します。[DWG 変換]ダイアログ ボックスでは、変換する DWG ファイルを指定する、今後も使用するためにリストを保存する、新規リストを作成する、既存のリストを開くまたは追加することができます。



[変換設定]では、ファイル形式やパスオプションなどの変換プロパティを指定できます。たとえば、Zipファイルまたは自己解凍実行可能ファイルなど、変換された図面の保存方法も指定できます。追加のオプションでは、図面の整理や変換プロセス中のページ設定の置き換えなどのアクションを実行できます。



複数の変換設定を保存したり、特定の変換プロパティを簡単に復元することもできます。たとえば、あるクライアントはすべての図面を AutoCAD 2000 ファイル形式で保存することを要求し、別のクライアントはすべての図面の名前削除を実行してから AutoCAD 2010 ファイル形式で提出することを要求するかもしれません。



シートセットマネージャと Vault の統合

Autodesk® Vault ソフトウェアは、設計およびエンジニアリングワークグループのデータの作成、シミュレーション、ドキュメント作成プロセスを管理します。履歴管理機能により設計データの管理が強化され、設計データの検索と再利用もすばやく行うことができるため、設計図書やエンジニアリング情報の管理が容易になります。

AutoCAD 2012 では、Autodesk Vault サポートがシートセット機能と統合されています。シートセットマネージャには、Autodesk Vault のログイン/ログアウト機能が含まれるようになりました。Autodesk Vault からシートセット ファイルを開いてチェックアウトできます。また、Autodesk Vault の Workgroup、Collaboration、Professional バージョン使用時のリビジョンおよびライフサイクル管理もシートセット機能でサポートされています。

Vault クライアントの更新により、シートセットデータの表示、シートセットプロパティの抽出とインデックス、Autodesk Vault バッチ印刷マネージャでシートセットの印刷を実行できるようになりました。

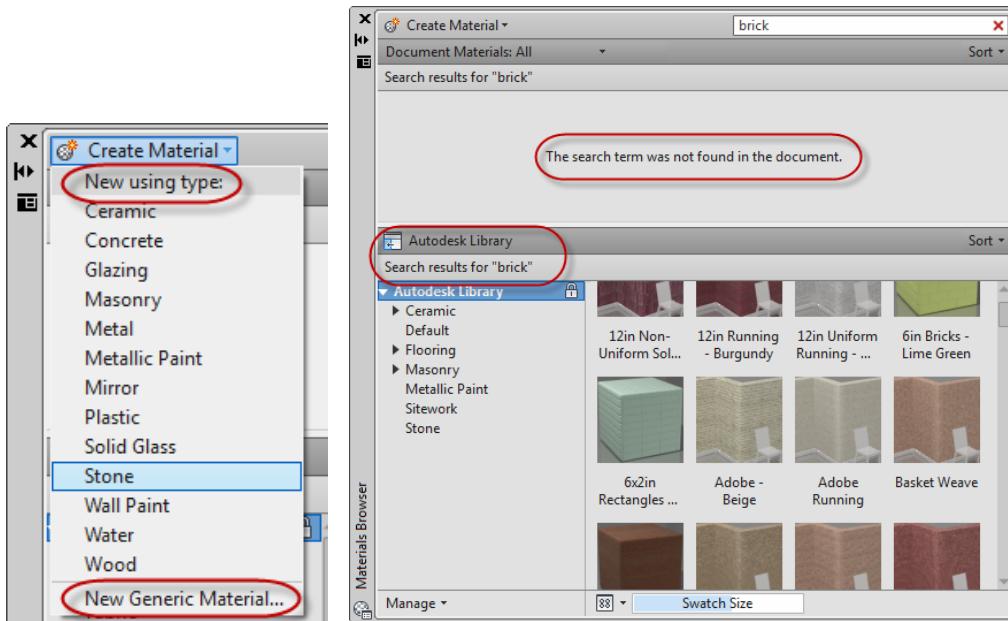
Autodesk Vault が使用中のシステムにインストールされている場合、Vault のステータスアイコンがシートセット、各シート、およびファイルのシートセットマネージャに表示されます。このステータスは、シートリストのシートの上にカーソルを置いたときに表示されるツールチップにも表示されます。

[シートセットマネージャ]の右クリックメニューが、Vault オプションを含むように更新されました。シートリスト、シートビュー、またはモデルビューの空白部分を右クリックすると、Vault にログイン/ログアウトするためのオプションにアクセスできます。

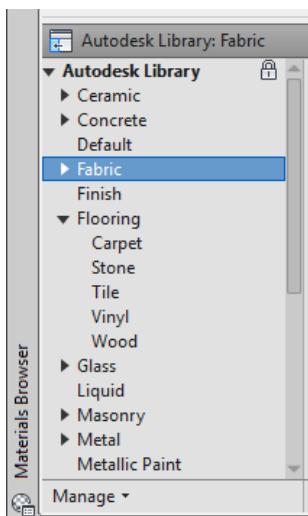
マテリアルライブラリ

Autodesk Materials Library は、必要に応じてオンラインからダウンロード、インストールできるようになりました。マテリアルライブラリをインストールすると、Autodesk Materials Library が Common Files¥Autodesk Shared¥Materials¥2012 フォルダに作成され、マテリアルが複数のサブフォルダに整理されます。

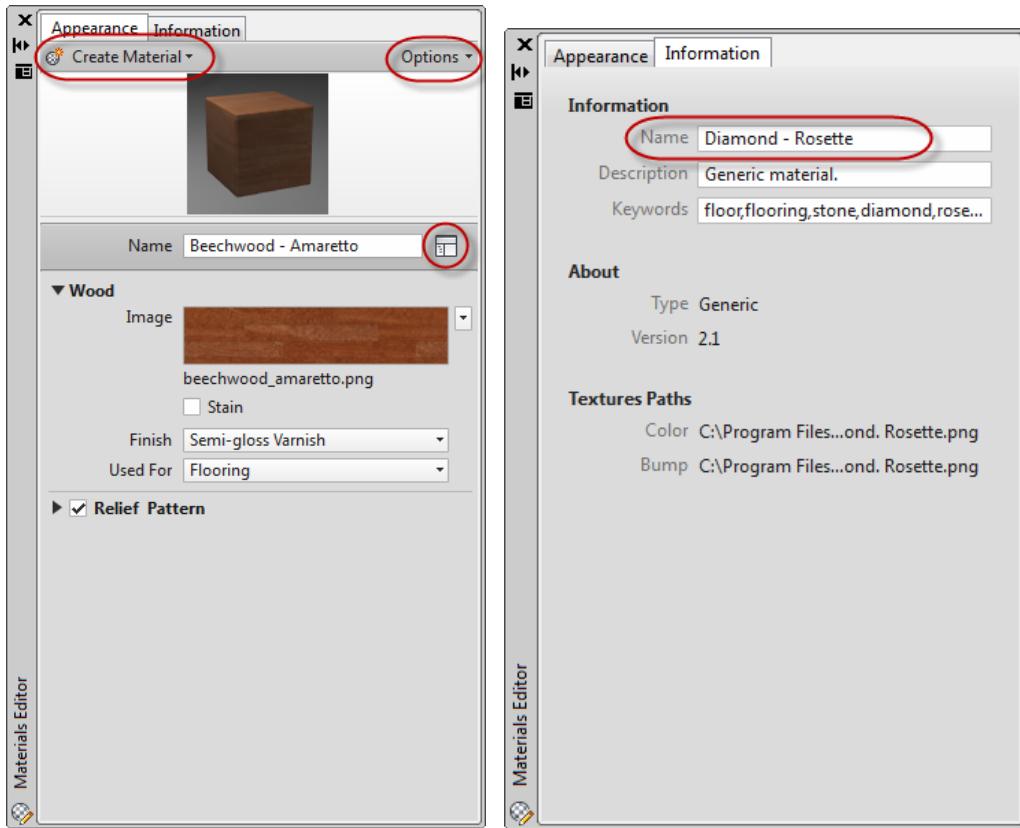
AutoCAD 2012 では、マテリアル ブラウザも更新され、より使いやすくなりました。[マテリアルを作成]メニューには、新規マテリアルの作成を明示する説明用のラベルが用意されています。検索ツールを使用すると、検索結果に見つからなかったマテリアルに関しての説明が表示されます。また、多数のマテリアル見本が更新されています。



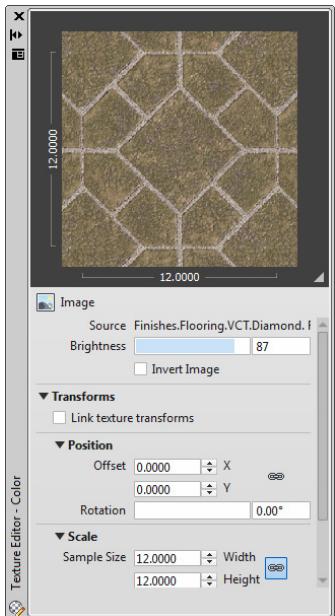
分類に基づいてマテリアルを見つけやすくするため、Autodesk Materials Library のマテリアルは適切な場合にネストされた分類に整理されました。



また、マテリアルの作成、オプションの指定、マテリアルブラウザへのアクセスに使用するマテリアルエディタのコントロールも見つけやすいラベルで更新されています。マテリアルエディタの[情報]タブには、マテリアル名のフィールドが含まれるようになりました。



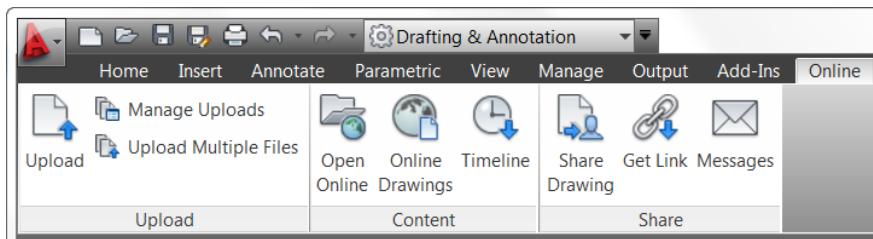
テクスチャエディタの動作は、[変換]オプションを自動的に展開するように更新されました。これにより、位置や尺度などの主要なプロパティを見つけやすくなりました。



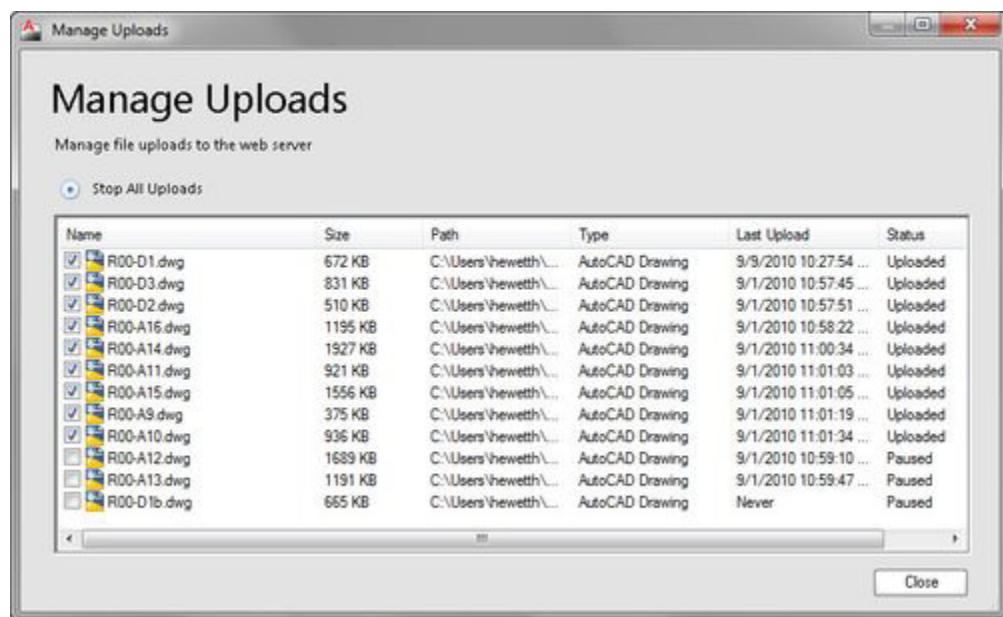
Autodesk Materials Library の改良に伴い、システム変数 MATSTATE および MATERIALSPATH は不要となったため削除されました。

AutoCAD WS

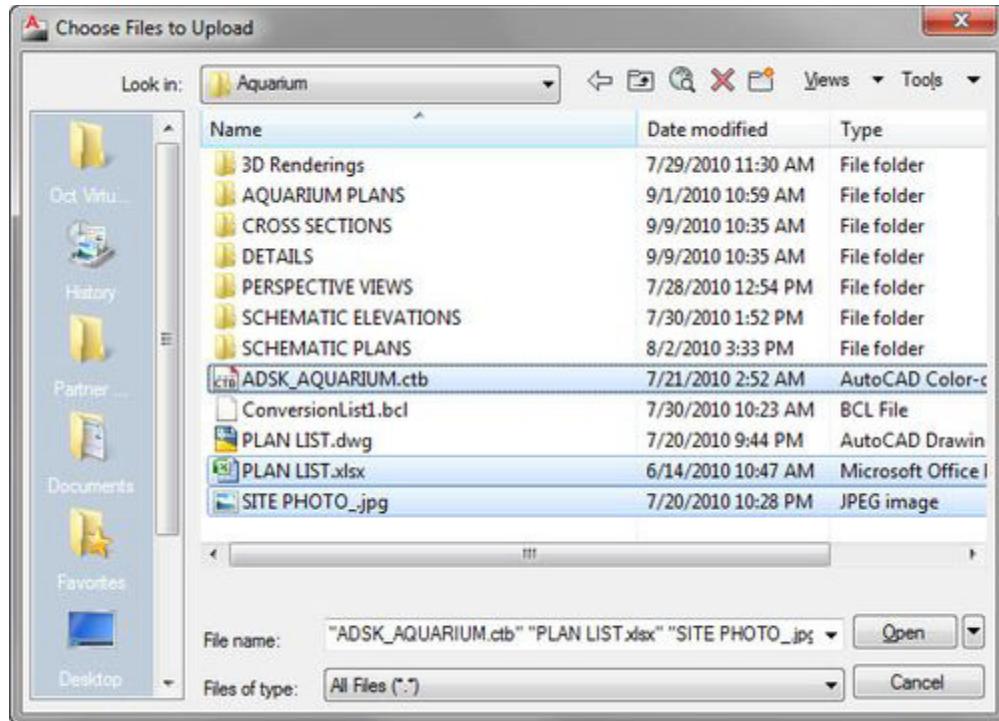
AutoCAD 2012 は AutoCAD を Web の世界に拡張しました。AutoCAD WS という Web アプリケーションおよびモバイルアプリケーションを使用して、相互に図面にアクセスすることができます。AutoCAD WS は、Web ブラウザまたはモバイルデバイス経由で DWG 図面を表示、編集、共有できるようになります。AutoCAD WS ツールには、[オンライン]リボン タブからアクセスできます。



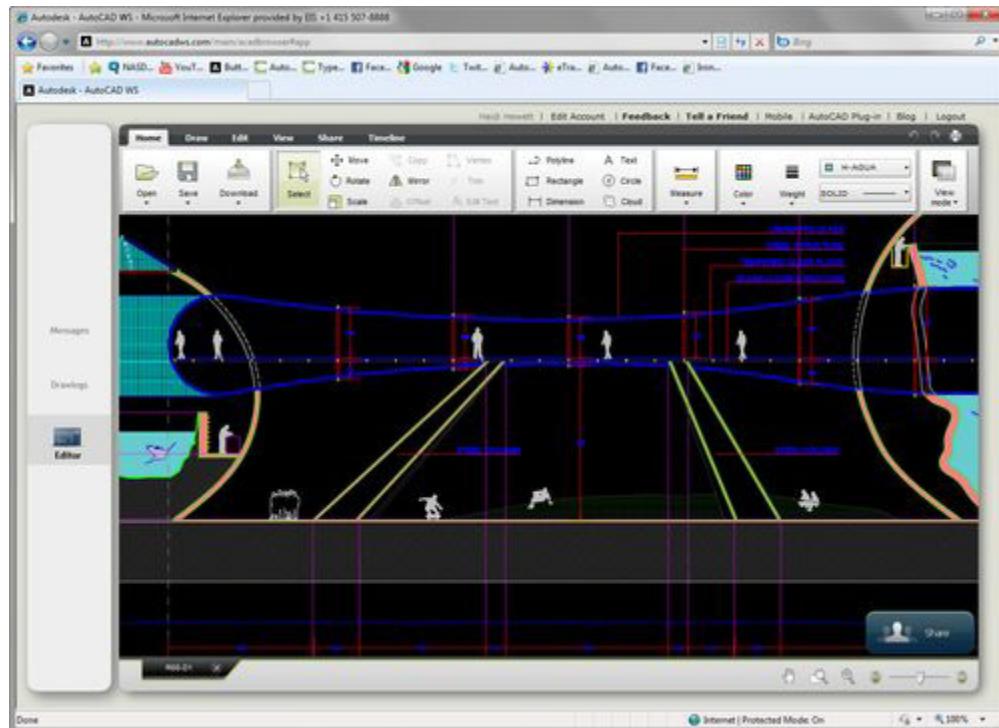
[アップロード]コマンドは、現在の AutoCAD 図面を AutoCAD WS サーバ上の安全な場所にアップロードできるようになります。また、このコマンドは自動アップロード機能を切り替える能力も備えています。自動アップロードを有効にすると、図面のローカルバージョンに加えた変更が Web サーバに自動的にアップロードされるようになります。[アップロード管理]コマンドを使用し、自動アップロードに含める図面を制御することも可能です。



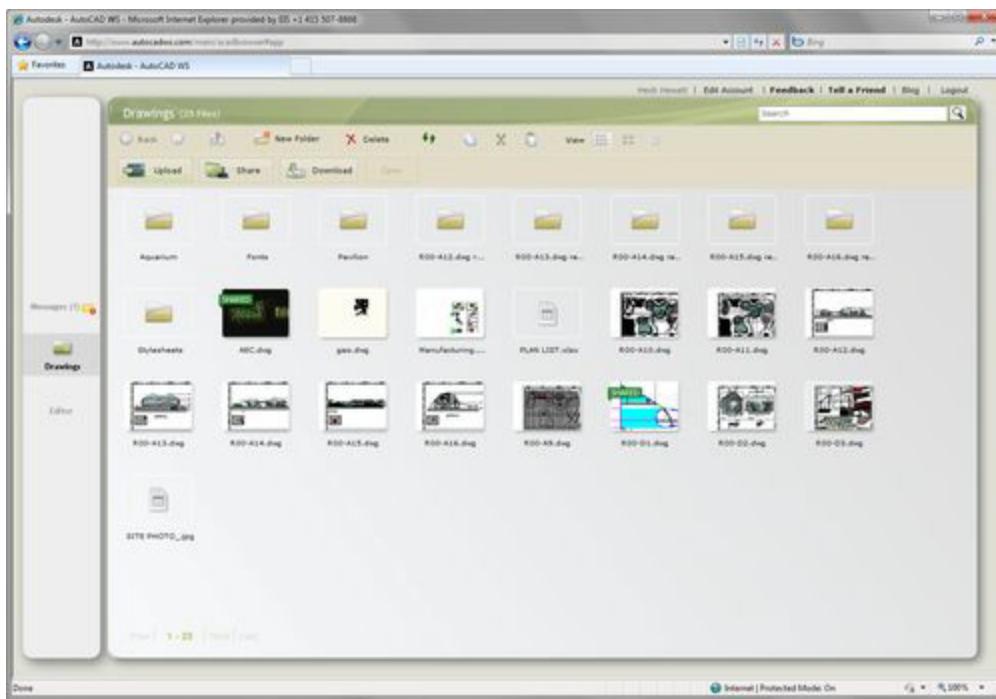
別のファイル タイプをアップロードするには、[アップロードするファイルを選択]を使用します。たとえば、AutoCAD 図面に加えて関連のある印刷スタイル、ラスターイメージ、スプレッドシート、およびその他のファイルをアップロードできます。



AutoCADで図面を開いている間は、[オンラインで開く]コマンドを使用してオンラインから図面にアクセスして編集できます。AutoCADは最後に保存された図面のバージョンを自動的にアップロードし、この図面をAutoCAD WS Web の図面エディタでオンラインから開きます。



[オンライン図面]コマンドを使用し、オンラインの図面やフォルダをすばやく表示できます。

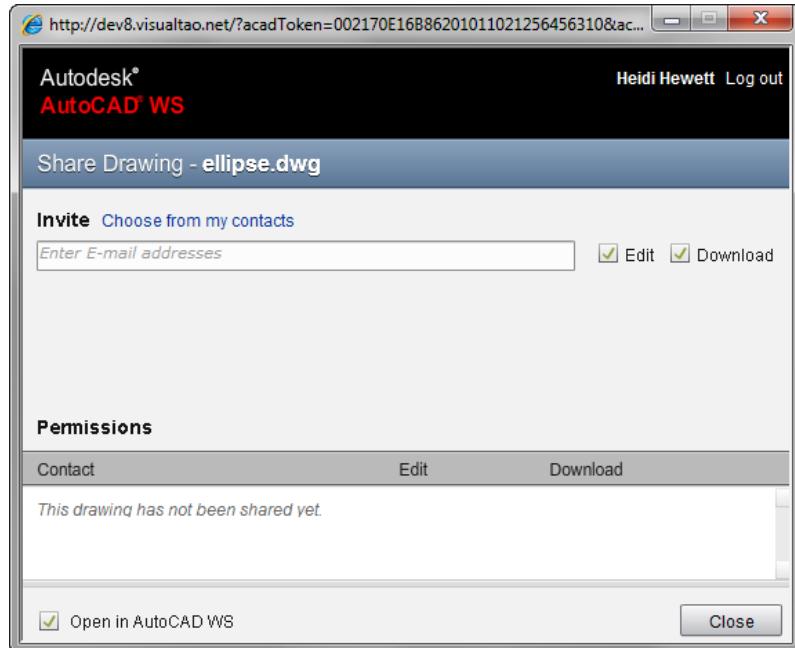


タイムラインツールでは、Web の膨大なストレージを活用して、他のユーザによる変更を含め、現在の図面の完全な設計履歴を提供します。

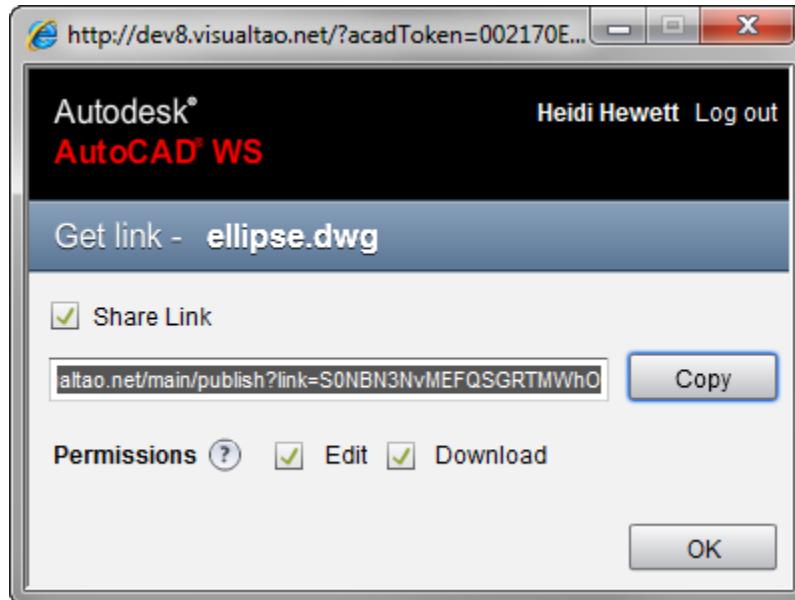
The screenshot shows a web browser window titled "http://dev8.visualtao.net/?acadToken=00217...". The title bar also includes "AutoCAD WS | Heidi Hewett" and "Logout". The main content is titled "Drawing Timeline" with the sub-instruction "View previous versions, meetings and edits by other users to this drawing." Below this, it says "Timeline for R00-D1.dwg". It shows three entries:

- Timeline for R00-D1.dwg**
 - Uploaded by: Me**
R00-D1.dwg uploaded (with a thumbnail image)
- August 25, 2010**
 - Drawing Version**
 - Uploaded by: Heather Wettherson**
R00-D1.dwg was saved by Heather Wettherson (with a thumbnail image)
- August 25, 2010**
 - Drawing Version**
 - Uploaded by: Me**
R00-D1.dwg uploaded (with a thumbnail image)
- August 25, 2010**
 - Drawing Version**
 - Uploaded by: Me**
R00-D1.dwg uploaded (with a thumbnail image)

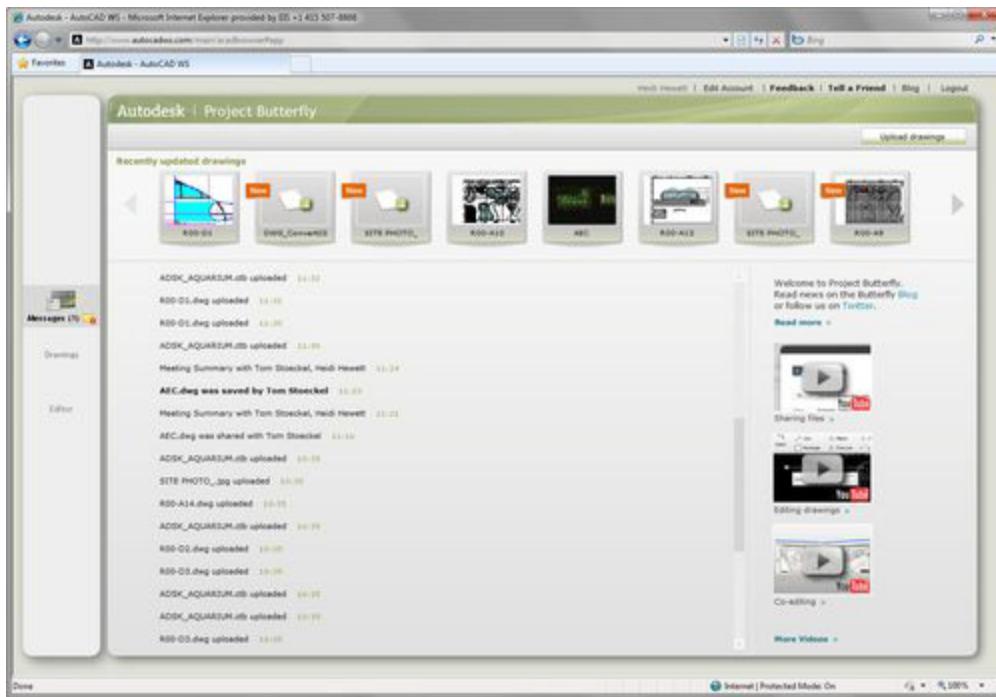
図面をオンラインで保存すれば、この図面を同僚やクライアントと共有し、共同作業をスピードアップさせることができます。[図面を共有]コマンドでは、共同作業者がオンラインで図面を編集できるか、または各自のデスクトップに図面をダウンロードできるかどうかを制御できます。また、電子メールの招待状で共同作業者に自動的に通知されます。



電子メールによる通知の他、[リンクを取得]ツールを使用し、共有図面に対するリンクをコピーし、Webページやドキュメントに埋め込むこともできます。



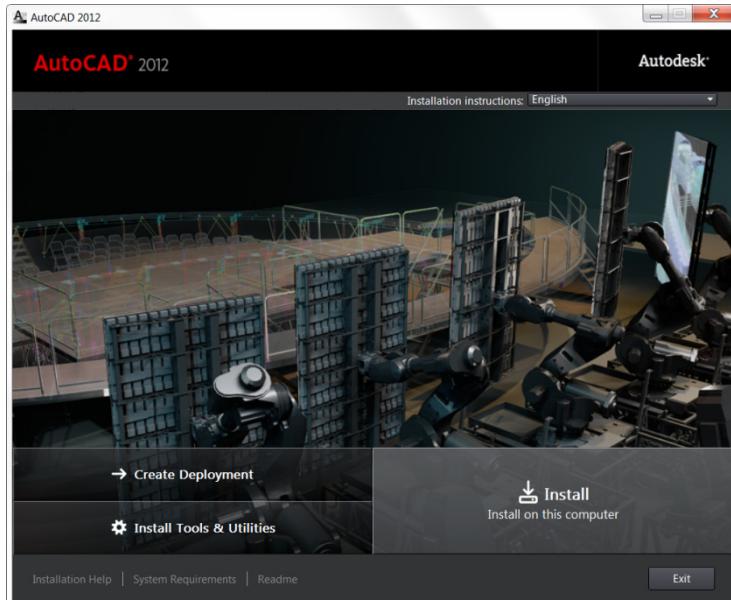
[メッセージ]ツールは、自分または別のユーザが共有したファイルやフォルダに関連のあるメッセージを表示できるようにします。



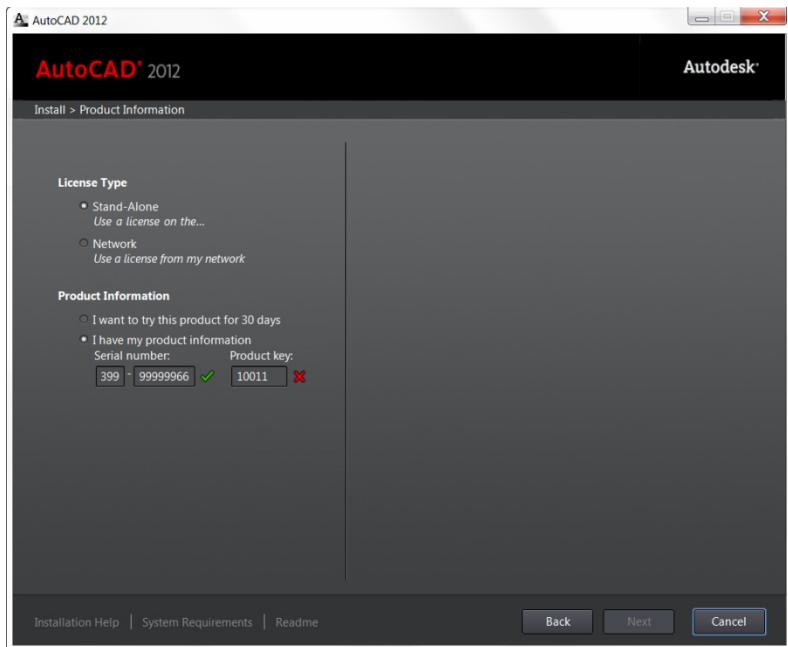
カスタマイズ

インストール

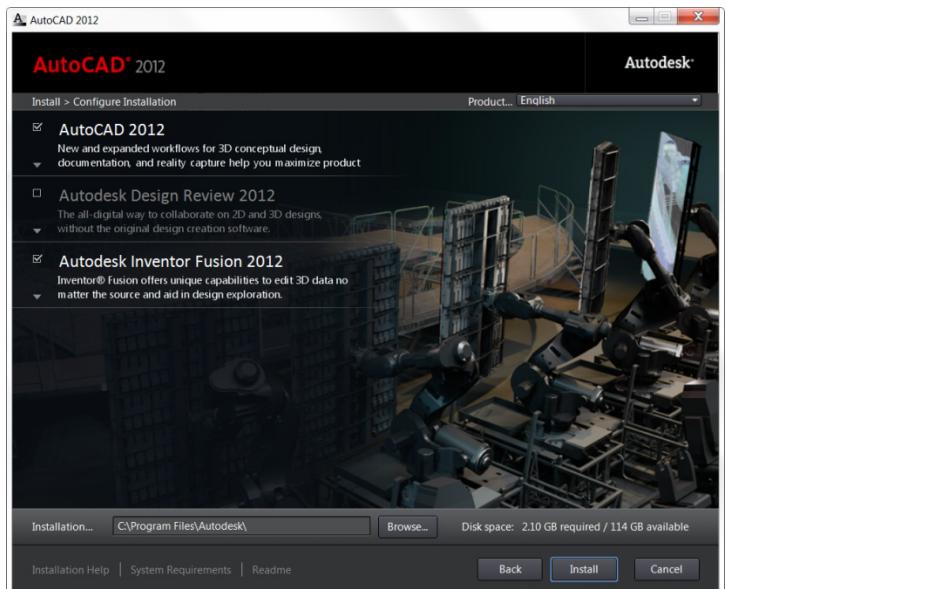
AutoCAD 2012 のインストール プロセスは、よりすばやくインストールできるように簡略化されました。



ダイナミック フィードバックは、入力時に間違った製品情報を確認するのに役立ちます。



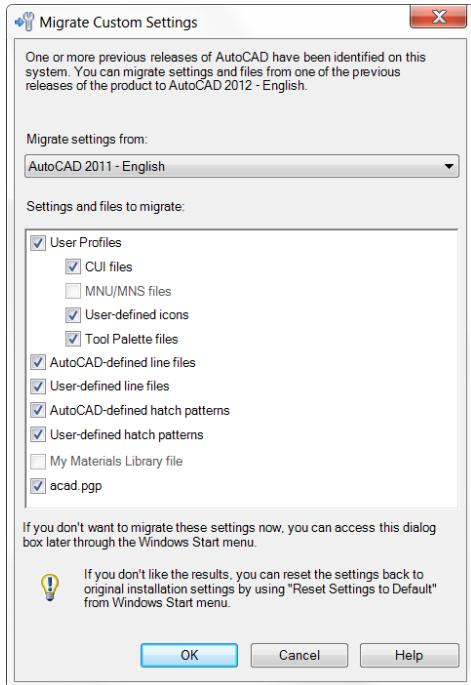
製品の選択ページには、製品の各コンポーネントの説明とインストール状況が含まれています。



移行とカスタマイズ

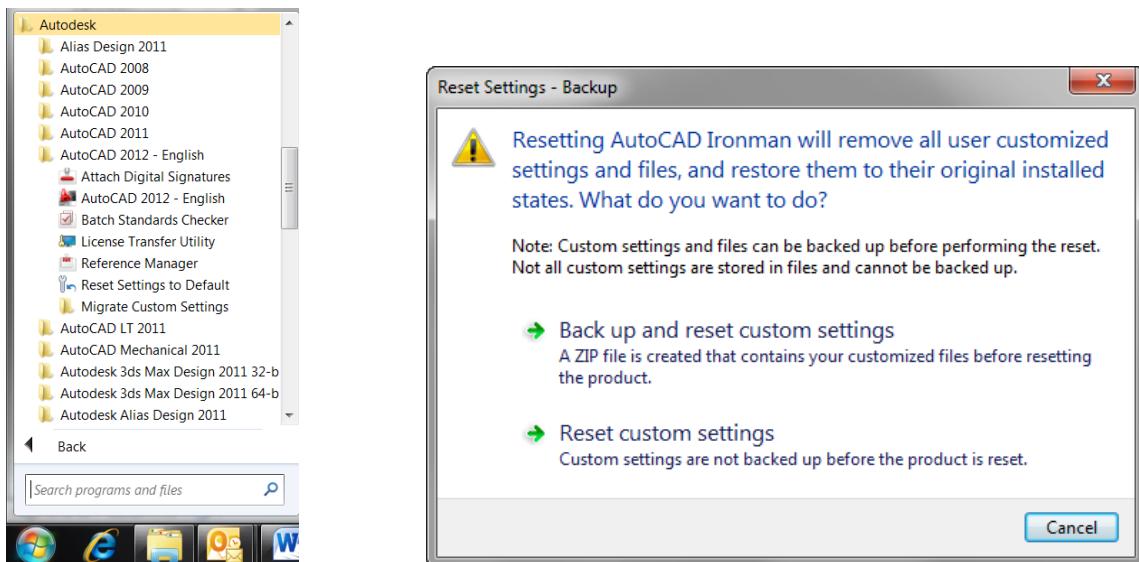
AutoCAD 2012 で新しく強化された移行ツールは、ユーザのカスタム設定の移行や、AutoCAD の既定のインストール設定へのリセットを容易にします。

[カスタム設定をマイグレート]ダイアログ ボックスの[ツールパレットファイル]オプションは、旧バージョンの AutoCAD で作成されたツールパレットを移行しやすくなります。ツールパレットファイルの移行には、ツールパレットグループも含まれます。[カスタム設定をマイグレート]ダイアログ ボックスの新しいオプションを使用すると、AutoCAD 2011 で導入されたマイマテリアルライブラリファイルを移行できます。

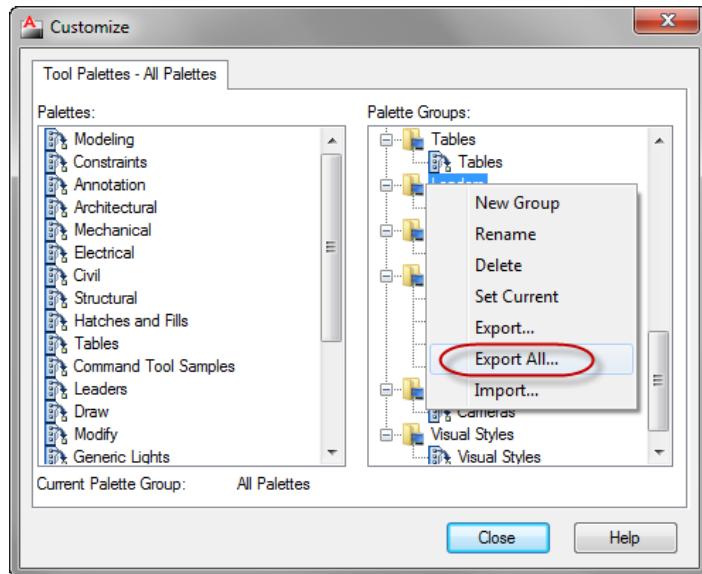


[カスタム設定をマイグレート]ダイアログ ボックスには、AutoCAD 2012 を初めて起動したとき、または Windows のスタートメニュー([スタート]>[すべてのプログラム]>[Autodesk]>[AutoCAD 2012 - Japanese]>[カスタム設定をマイグレート])から簡単にアクセスできます。

AutoCAD 2012 にカスタム設定を移行した後で、既定の設定に戻したい場合は、新しいリセットツールを使用できます。このツールは、Windows のスタートメニュー([スタート]>[すべてのプログラム]>[Autodesk]>[AutoCAD 2012 - Japanese]>[設定を既定にリセット])から使用できます。[設定をリセット]ツールには、既定のインストール状態を復元する前に、カスタマイズされたファイルを ZIP ファイルにバックアップするオプションがあります。また、[設定を既定にリセット]は、AutoCAD に変更やカスタマイズを加えた後で、既定のインストール状態にすばやく戻したい場合に役立ちます。移行またはリセットツールの実行時には、すべての AutoCAD 製品を閉じる必要があります。



[カスタマイズ]ダイアログ ボックスのサイズを変更できるようになり、AutoCAD 2012でツールパレットグループの管理と書き出しが行いやすくなりました。[すべて書き出し]オプションにアクセスするには、任意のパレットグループを右クリックします。このオプションは、以前はパレットグループリストの空白部分を右クリックした場合にのみ使用できました。



印刷ファイルの検索パス

AutoCAD 2012では、印刷ファイルを管理するための柔軟性が向上しました。プリンタ構成(.PC3)ファイル、プリンタ説明(.PMP)ファイル、印刷スタイル(.CTB および .STB)ファイルに対して複数のフォルダを指定できるようになりました。[オプション]ダイアログ ボックスの[ファイル]タブで、サポートパスを追加できるようになりました。これらのファイルが指定されたフォルダで見つからない場合、AutoCADはホストファイルのフォルダを自動的に検索します。[印刷スタイルテーブルを追加]ウィザードまたは[プロッタを追加]ウィザードへのショートカットのコピーが、新しいパスに追加されます。

